

第一次佐久市総合計画後期基本計画「目標」の進行状況(まとめ)

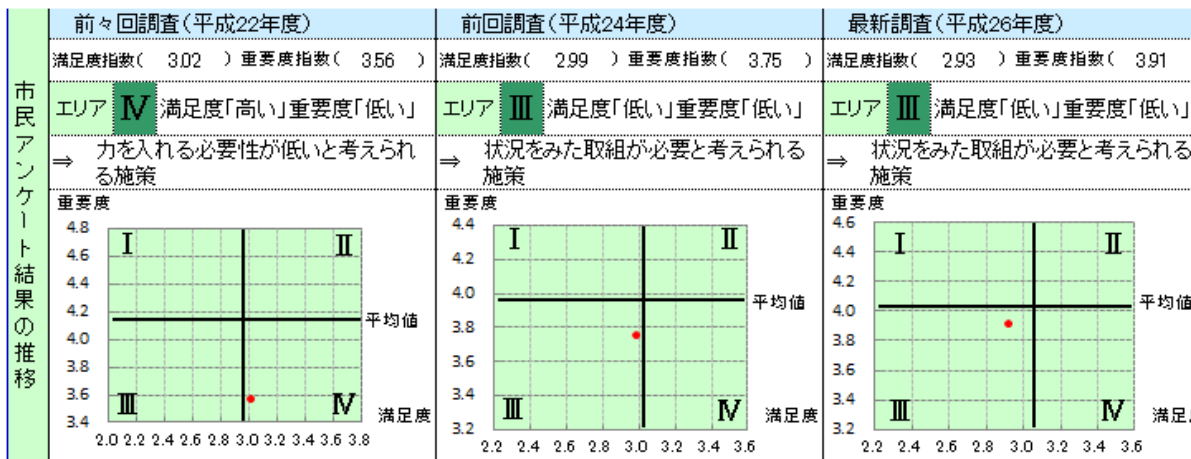
<色別表示の見方>
 ■:目標の推移が「順調」
 ■:目標の推移が「概ね順調」
 ■:目標への進行状況が「やや遅れている」
 ■:目標への進行状況が「遅れている」

第1章 たくましく心豊かな人材の育成と地域文化の保存・継承と発祥

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移						結果の分析	今後の方針	備考
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度			
1			貸し館系施設の利用件数	件/年	8,705 [H22]	9,500	目安値実績値	8,864	9,023	9,182	芸術文化への関心の高まりや高齢者等の余暇利用から、貸館の利用件数が増えていると考えられる。	利用しやすい施設とするため、コスモホールの施設修繕を進める。文化事業を実施する者への補助制度(芸術文化活動事業補助金)を継続する。	目標達成
							評価	順調	順調	順調			
2	111	文化・芸術	観覧系施設の延べ入館者数	人/年	38,844 [H22]	40,000	目安値実績値	39,075	39,306	39,538	減少傾向は継続していると考えられる。(急激な減は旧中込学校の修理等工事のための休館による。)	展示・展覧会の企画を充実させるとともに、講演会やワークショップなどの講座を開催し、入館者の増加に取組む。	
							評価	遅れている	遅れている	遅れている			
3			少年考古学教室参加者数	人/年	67 [H22]	80	目安値実績値	70	72	75	当初予定していた体験作業は出土品が少なく、発掘体験は体験が可能な現場がなかったため実施できなかった。代替として指定文化財の見学等を実施したが目標値に達しなかった。	小学校への出土品の貸出などを検討し、埋蔵文化財への関心を高めることにより少年考古学教室への参加者を増やし、「順調」の評価を目指す。	
							評価	順調	順調	遅れている			

施策名：文化芸術

- 文化振興のあり方検討
- 既存施設の充実と有効活用
- 市民の文化・芸術活動の促進
収蔵美術品の調査・検討
- 佐久の先人(業績・影響などを残した人物)の調査検討と成果の活用
- 文化財の保護・継承と有効活用



アンケート結果の分析

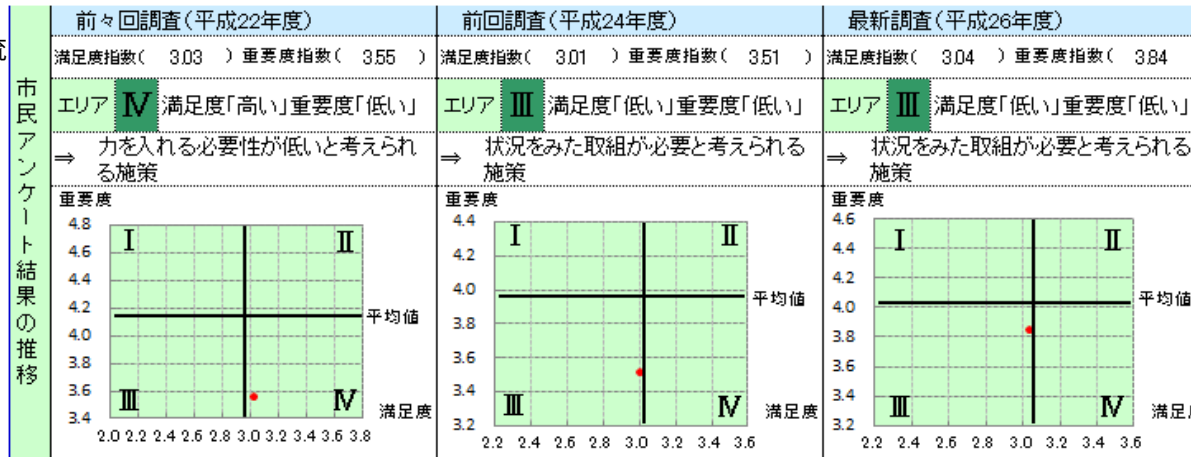
いずれも平均値を下回っているが、重要度指数の上昇傾向に反し、満足度指数は下降傾向にある。文化振興や文化財の保護・活用に市民の関心が高まっている結果と分析できる。市民のニーズに即した文化施設等の運営や各種事業を展開し、満足度指数の上昇を図る。

第1章 たくましく心豊かな人材の育成と地域文化の保存・継承と発祥(続き)

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移						結果の分析	今後の方針	備考
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度			
4	112	地域間交流・国際交流	国際交流フェスティバル延べ参加者数	人/年	2,800 [H22]	3,500	目安値	2,940	3,080	3,220	ポスター、チラシによる広報に努めたが、会場の駐車場の確保が少なかったこともあり参加者は目標の値を下回った。	広報の仕方を、紙媒体だけでなくQRコードなどを利用し情報を広げ、各活動団体からの周知も行う。また、会場周辺を含め、参加しやすい環境を整え、魅力的な内容を精査し、参加者の増加を図る。	
							実績値	2,750	2,500	2,800			
							評価	遅れている	遅れている	遅れている			
5	112	地域間交流・国際交流	国際交流サロン延べ参加者数	人/年	319 [H22]	400	目安値	335	351	368	事業を企画するボランティア団体から、サロンの開催希望が7回から6回に減ったことや、内容が前年と同じになってしまったこともあり、参加者数は目標値を下回った。	マンネリ化を防ぐため、サロンの内容を精査し、交流を生むイベント事業はボランティア団体を中心に、生活のサポート的内容は行政も関わりながら、サロンの回数も含め充実を図る。	
							実績値	309	328	228			
							評価	遅れている	やや遅れている	遅れている			
6	112	地域間交流・国際交流	空き家バンク掲載物件の契約成立件数	件/年	39 [H22]	50	目安値	41	43	46	目安値には1件およばなかったが、佐久市の空き家バンクの周知が図られていることが契約実績に結び付いている。	利活用可能な空き家の掘り起こしにより、引き続き空き家バンクの充実を図る。	
							実績値	47	59	45			
							評価	順調	順調	概ね順調			

施策名：地域間交流・国際交流

- 交流人口の創出
- 国際性豊かな人材育成
- 在住する外国人が暮らしやすいまちづくり



アンケート結果の分析

空き家バンク事業は全国的にもトップクラスの物件成約実績を上げている事業である。

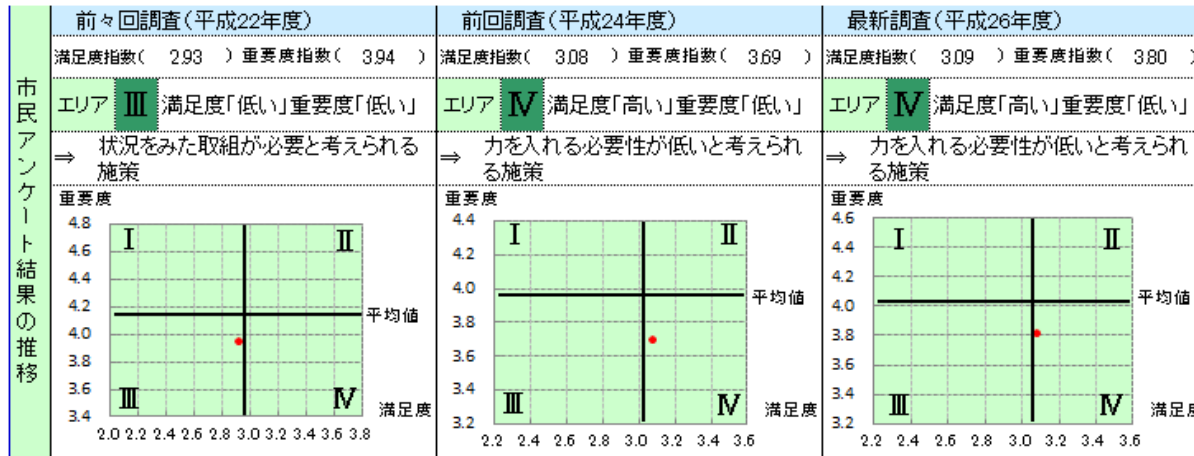
移住交流推進事業等は、交流人口の創出に直接関わる事業であり、全国的に人口が減少する中で、移住交流施策の推進により、佐久市の人口は維持・増加が図られ、地域の活性化にも寄与する事業として市民にも徐々に浸透していると考えられる。平成24年の重要度指数が3.5に比べ、平成26年度では、3.8と上昇しており、今後も空き家バンクの充実を図るため、市民への周知と理解が深まるよう努める。

第1章 たくましく心豊かな人材の育成と地域文化の保存・継承と発祥(続き)

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移						結果の分析	今後の方針	備考
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度			
7	113	人権尊重社会	人権教育・啓発事業などの延べ参加者数	人/年	8,105 [H22]	8,500	目安値	8,184	8,263	8,342	区や学校・民生委員会等に対して、学習会や講座について積極的な呼びかけを行ったことで、参加者の増加に結びついた。	人権同和教育講座や各区への学習会、また、学校・企業での研修会を開催し、市民一人ひとりの人権意識の高揚を図っていく。	目標達成
							実績値	11,033	10,135	10,989			
							評価	順調	順調	順調			
8	113	人権尊重社会	隣保館活動などの延べ参加者数	人/年	5,227 [H22]	5,300	目安値	5,242	5,256	5,271	身近な内容の事業を行い、広く市民に情報提供することにより、目標とする成果は得られた。しかしながら、参加者等の都合により、急遽実施できない講座、事業があり、昨年度よりは参加者が減少した。	各隣保館で開催している講座等を、それぞれ身近な地域の実態やニーズに合わせた内容を取り入れ引き続き実施し、地区住民との交流を促進していく。	目標達成
							実績値	6,025	6,073	5,711			
							評価	順調	順調	順調			

施策名：人権尊重社会

- 人権意識の高揚
- 人権教育の推進



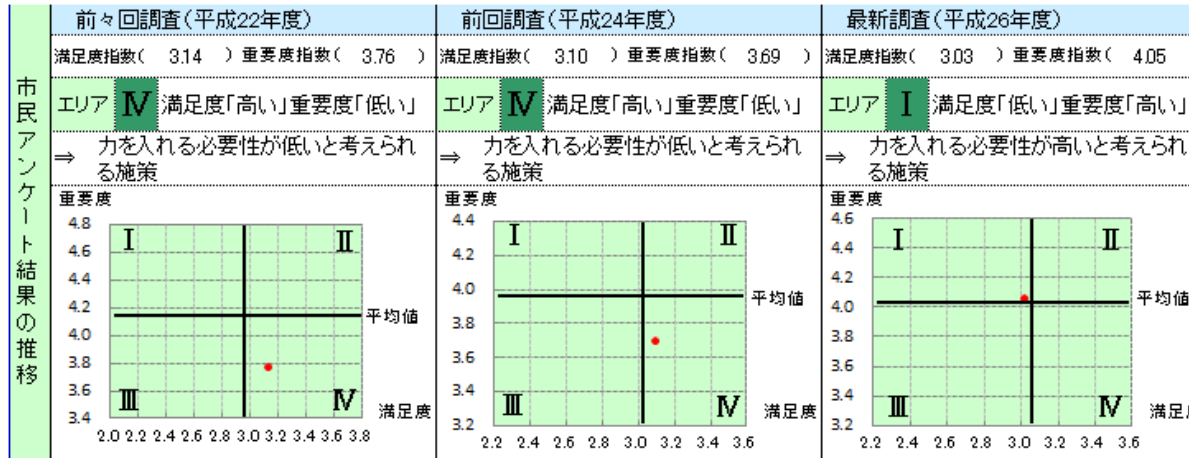
アンケート結果の分析
あらゆる差別が解消され、市民がお互いの人権を尊重し合う心豊かな生活を送っていることを願っているが、重要度が低いとの判断は、人権意識の低下や人権感覚が醸成されていない状況である。しかしながら、満足度・重要度指数が前回と比べて微増しているのは、教育や啓発の成果と捉える。今後、満足度・重要度を上げていくには、粘り強く人権同和教育を推進し、人権感覚や人権意識の高揚を図っていく。

第1章 たくましく心豊かな人材の育成と地域文化の保存・継承と発祥(続き)

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移						結果の分析	今後の方針	備考
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度			
9	114	男女共同参画社会	審議会などにおける女性委員の登用率	%	18.1 [H22]	25.0	目安値実績値	19.5	21.0	22.2	各課へ女性委員の登用に努めるよう推進していることから、微増している。	意識改革はすぐに成果が表れるものではないが、目標値に近づくように機会あるごとに各課への呼びかけ協力を仰ぐとともに、一般公募の中に率先して手を挙げていけるような、女性の人材育成を図っていく。	
						評価	順調	概ね順調	順調				

施策名：男女共同参画社会

- 男女共同参画意識づくり
- 男女が共に健やかに暮らし、安心して働ける環境づくり
- 男女共同参画の視点による人権の尊重と暴力のない社会づくり



アンケート結果の分析

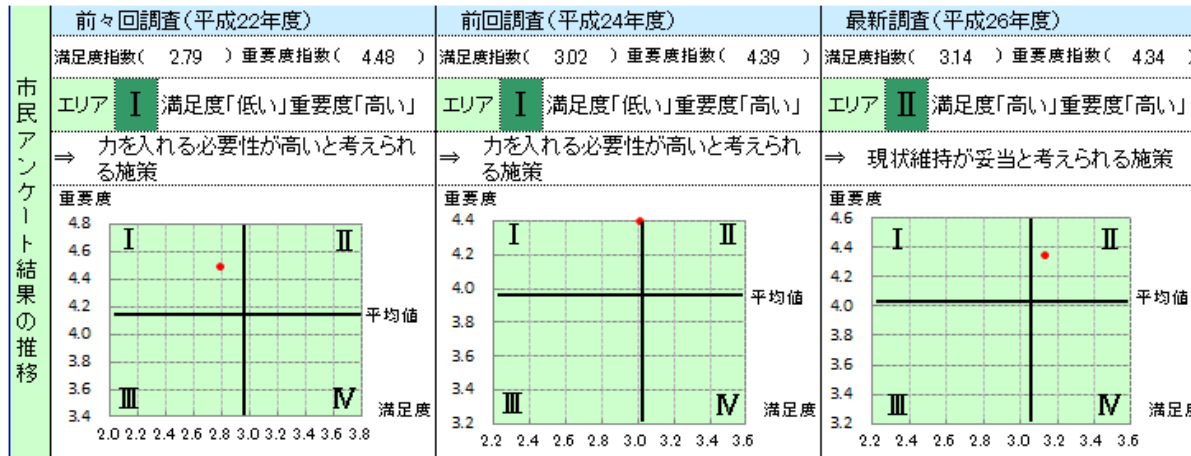
・前回調査に比べ満足度指数が微減している反面、重要度は「高い」に変化している。これは、「男女共同参画プラン」啓発が徐々に浸透したことによる、市民の「男女共同参画社会」に対する意識改革推進成果の表れともいえる。今後も継続して周知・啓発をしていき、男女とも住みよい社会にし、満足度・重要度を共に上げていく必要がある。

第1章 たくましく心豊かな人材の育成と地域文化の保存・継承と発祥(続き)

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移						結果の分析	今後の方針	備考
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度			
10	122	学校教育	小学校不登校児童の割合	%	0.36 [H22]	0.32	目安値	0.35	0.34	0.34	目標値には達していないが、教育委員会設置の不登校等対策連絡協議会による不登校対策提言(H25)、事例集(H26)の発信、学校の不登校担当者を集めた担当者会議を年3回開催(H26より)するなど教職員のスキルアップや情報共有の場の創出等により昨年度より改善した。	児童相談所や子育て支援課等、関係機関との連携を密にし、児童の家庭環境の大きな変化をいち早くつかみ、適切な対応をしていく。	
							実績値	0.51	0.60	0.44			
							評価	遅れている	遅れている	遅れている			
11			中学校不登校生徒の割合	%	3.24 [H22]	2.74	目安値	3.14	3.04	2.94	関係機関との連携をより深める努力をしたところ、不登校生徒の数は減少したが、今後も継続した対応が必要。	日々の欠席状況の把握や生徒との教育相談の機会を定期的に設けることなどに重点を置き、不登校状況を未然に防ぐための努力をしていく。	目標達成
							実績値	3.35	3.46	2.31			
							評価	遅れている	遅れている	順調			

施策名：学校教育

- 学校教育施設の充実
- 教育内容の充実
- 特別支援教育、不登校対策の推進
- 学校給食の充実
- 児童生徒の保健管理と安全対策の推進



アンケート結果の分析

昨今の、いじめや不登校、教職員の不祥事等の報道などから、市民の教育に対する関心が高まり、重要度が高い施策と認識されているものと考えられる。満足度については、前々回前回比で上昇しているが、小中学校における市費学力向上職員の配置によるきめ細かな学習指導や、特別支援教育支援員の増員による支援の充実、またスクールメンタルアドバイザーや就学支援専門員の市教委への配置による、教育相談の充実などによる成果が徐々に表れてきたものと判断する。

各学校では、楽しい学校・わかりやすい授業の学校を目指している。

市教委においても、学校への支援として、今後も、「学力・体力の向上」・「いじめ・不登校改善」の課題に、子どもたちに寄り添ったきめ細やかな対応ができるよう、支援・相談体制の充実や学校環境の整備を進めていく。

第1章 たくましく心豊かな人材の育成と地域文化の保存・継承と発祥(続き)

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移								
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度	結果の分析	今後の方針	備考
12	123	高校教育・高等教育	奨学金制度利用者数	人/年	32 [H22]	40	目安値	34	35	37	平成23年度に対象となる学校に専門学校を加え、平成24年度に償還方法が選択できるように運用を変更し、利用者数の増に努めた。これらにより平成28年度末の目標値を上回ることができている。	制度のPRと合わせ、他の制度や他の自治体の制度と比較検討し、本制度がさらに活用されるよう改善していく。	目標達成
						実績値	21	49	72				
						評価	遅れている	順調	順調				

施策名：高校教育・高等教育

- 高校教育の充実
- 優秀な人材の育成

市民アンケート結果の推移	前々回調査(平成22年度)	前回調査(平成24年度)	最新調査(平成26年度)
		満足度指数(2.79) 重要度指数(4.48)	満足度指数(2.99) 重要度指数(4.25)
	エリア I 満足度「低い」重要度「高い」 ⇒ 力を入れる必要が高いと考えられる施策	エリア I 満足度「低い」重要度「高い」 ⇒ 力を入れる必要が高いと考えられる施策	エリア I 満足度「低い」重要度「高い」 ⇒ 力を入れる必要が高いと考えられる施策
	重要度 4.8 4.6 4.4 4.2 4.0 3.8 3.6 3.4 満足度 2.0 2.2 2.4 2.6 2.8 3.0 3.2 3.4 3.6 3.8	重要度 4.4 4.2 4.0 3.8 3.6 3.4 3.2 満足度 2.2 2.4 2.6 2.8 3.0 3.2 3.4 3.6	重要度 4.6 4.4 4.2 4.0 3.8 3.6 3.4 3.2 満足度 2.2 2.4 2.6 2.8 3.0 3.2 3.4 3.6

アンケート結果の分析
高等教育とその重要性に関する関心は、相変わらず高い。奨学金制度については平成23年度より制度の対象となる学校に専門学校を含めることとしたり、平成24年度中より償還方法について、毎月均等償還と償還当初は少額で経年により償還額を増やしていく方法を選択できるようにした。これらもあってか若干の満足度の伸びは見たが、相変わらず平均的な満足度指数を下回っている。今後もニーズに合わせた施策を実施していく。

第1章 たくましく心豊かな人材の育成と地域文化の保存・継承と発祥(続き)

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移								
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度	結果の分析	今後の方針	備考
13	124	青少年の健全育成	各地区の育成活動への延べ参加者数	人/年	183,139 [H22]	184,000	目安値	183,311	183,483	183,656	目標値には達していないものの昨年度からは大幅の増となった。児童数の減少により、人数を必要とするスポーツ活動への参加が制限され、参加者が減少傾向だったが、各地区合同での大会の実施などの工夫により、増加につながった。また、文化活動についても地区育成会と各地区が連携して活動したことにより参加者が増加した。	育成会活動や地域体験活動を更に推進するためには、各地域での育成推進員の重要さと推進員の資質向上に努めると共に、更なる育成会活動の取組に対するアドバイスや他地区との合同開催の提案等による支援を推進する。	
						実績値	167,007	146,429	177,141				
							評価	遅れている	遅れている	遅れている			

施策名：青少年の健全育成

- 地域ぐるみの青少年育成
- 青少年研修事業の推進
- 交流・学習拠点施設の充実

市民アンケート結果の推移	前々回調査(平成22年度)	前回調査(平成24年度)	最新調査(平成26年度)
		満足度指数(297) 重要度指数(4.26)	満足度指数(304) 重要度指数(4.08)
	エリア II 満足度「高い」重要度「高い」	エリア II 満足度「高い」重要度「高い」	エリア IV 満足度「高い」重要度「低い」
	⇒ 現状維持が妥当と考えられる施策	⇒ 現状維持が妥当と考えられる施策	⇒ 力を入れる必要性が低いと考えられる施策

アンケート結果の分析
<p>・3回の調査で、満足度指数が、わずかに高くなっていることから、育成会活動が地域で徐々に浸透している結果と推測される。今後、満足度を更に上げるべく地区の育成活動を支援する。</p> <p>・重要度は、「高い」(現状維持が妥当)から転じて「低い」(力を入れる必要性が低い)となってしまったことは、育成会活動の重要性を広く市民に周知浸透できなかった結果と踏まえ、青少年の健全育成のためには地区育成会活動が重要な役割を担っている事を周知する。</p>

第1章 たくましく心豊かな人材の育成と地域文化の保存・継承と発祥(続き)

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移								
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度	結果の分析	今後の方針	備考
17			スポーツ教室延べ参加者数	人/年	4,225 [H22]	5,000	目安値実績値	4,380	4,535	4,690	参加者不足及び講師の都合により中止となった教室が5教室あったが、参加者数は昨年を上回った。	市民ニーズを把握するため、アンケート調査を実施し、ニーズに合った教室内容を検討する。	
							評価	概ね順調	遅れている	遅れている			
							目安値実績値	4,328	3,046	3,448			
18	132	スポーツ	スポーツ大会延べ参加者数	人/年	15,912 [H22]	17,500	目安値実績値	16,230	16,547	16,865	参加者が多い元旦マラソンと臼田地区ソフトボール大会が天候不順により中止となったため、昨年より少ない結果となった。	参加資格や対象年齢、競技運営方法等について見直し、参加者が増える大会になるよう検討する。	
							評価	遅れている	遅れている	遅れている			
							目安値実績値	13,453	13,644	13,042			
19			体育施設延べ利用者数	人/年	631,300 [H22]	700,000	目安値実績値	645,040	658,780	672,520	改修等で使用できない施設もあるが、佐久総合運動公園陸上競技場で、部活動など団体での利用者が増加している。	施設の長寿命化計画を策定する中で、計画的に施設整備を実施していく。	
							評価	やや遅れている	順調	順調			
							目安値実績値	635,910	686,948	680,040			

施策名：スポーツ

- 生涯スポーツ参加機会の充実
- 競技スポーツの振興
- 体育施設の充実

市民アンケート結果の推移	前々回調査(平成22年度)	前回調査(平成24年度)	最新調査(平成26年度)
	満足度指数(3.04) 重要度指数(3.85)	満足度指数(3.02) 重要度指数(3.76)	満足度指数(3.15) 重要度指数(3.78)
	エリアⅣ 満足度「高い」重要度「低い」 ⇒ 力を入れる必要性が低いと考えられる施策	エリアⅢ 満足度「低い」重要度「低い」 ⇒ 状況をみた取組が必要と考えられる施策	エリアⅣ 満足度「高い」重要度「低い」 ⇒ 力を入れる必要性が低いと考えられる施策

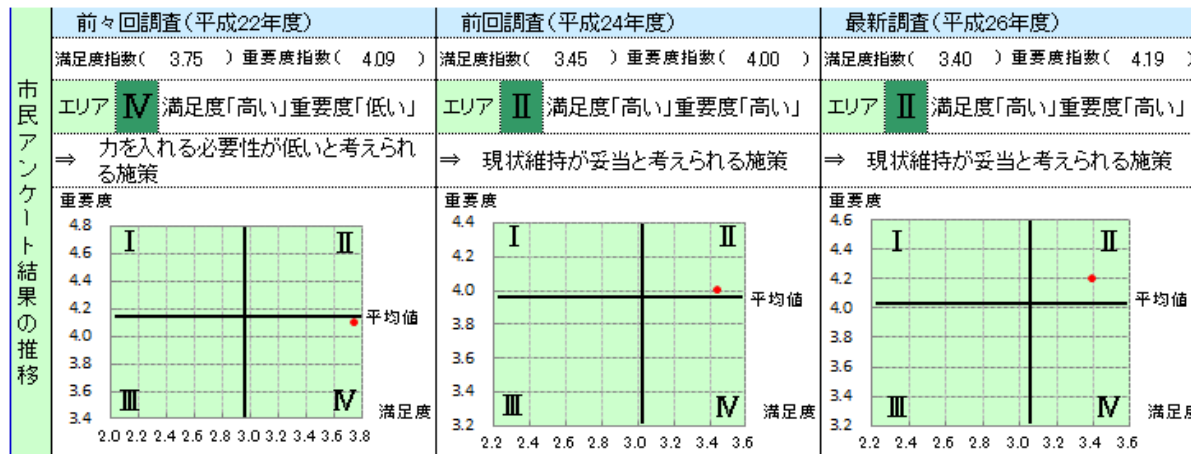
アンケート結果の分析
<p>前回調査に比べ、満足度、重要度ともに微増している。大会やスポーツ教室は、一部の参加者に限られていると考えられることから市全体からみた評価は低いと思われる。今後はアンケート調査を行い、市民ニーズに対応した事業を実施し、スポーツに対する意識を高めていくことが必要と思われる。また、ニーズに合った施設整備を行うことで、満足度が高まっていくと考えられる。</p>

第2章 ネットワークで築く地域の個性・特色を生かした多機能都市づくり

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移									
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度	結果の分析	今後の方針	備考	
20		高速交通ネットワーク	長野新幹線の延伸(長野一金沢間の開業)		未開業 [H22]	開業					平成27年3月に金沢まで延伸開業がされた。平成27年1月に政府与党申し合せで、敦賀までの完成目標が34年度とされた。	北陸新幹線の佐久平駅停車本数確保に向けて関係機関へ働きかけて行くとともに、敦賀までの速やかな開通と金沢一大阪間の早期全線開通を目指し関係団体と協力していく。	目標達成	
21	211		中部横断自動車道佐久南インターチェンジー八千穂インターチェンジ(仮称)間の開通		未開通 [H22]	開通					26年度開業予定 26年度開業予定 27年3月14日開業	本区間について、平成26年4月に国土交通省より平成29年に開通と公表された。	29年度開通に向けて、道水路整備事業、中部横断自動車道調整事業を進捗させる。併せて、県施行の県道上小田切臼田停車場線アクセス道の整備促進していく。	
22			中部横断自動車道八千穂インターチェンジ(仮称)から長坂ジャンクション(仮称)間の整備計画格上げ		基本計画区間 [H22]	整備計画区間					未定 未定 未定	計画段階評価が行われルート帯案が決定。対応方針案が発表された。次に環境影響評価となり、整備区間への格上げの段階。	今後は、環境影響評価の実施、整備区間格上げに向けて要望活動を行っていく。	

施策名：高速交通ネットワーク

- 高速自動車道の整備促進
- 北陸新幹線の延伸促進
- 松本・佐久間の地域高規格道路建設促進
- 佐久平駅やインターチェンジの利用促進



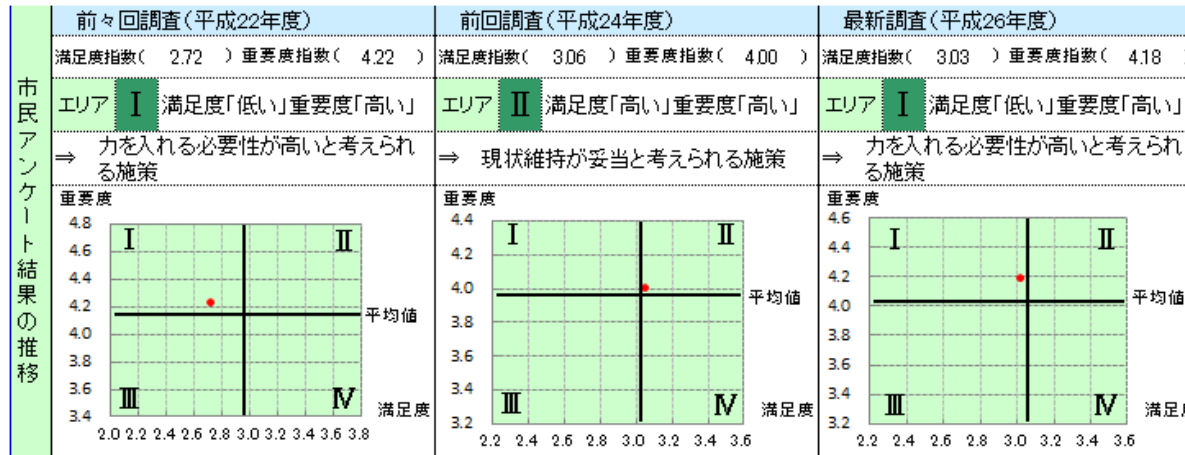
アンケート結果の分析
最新調査で、満足度が前回と同様に微減となった。これは中部横断自動車道(仮称)八千穂ICまでが、平成29年度開通と発表されたことにより具体的な目安は示されたが、3年後の開通となることから満足度は微減となったと推測される。
一方、重要度は微増となった。これについては北陸新幹線の金沢延伸開業が平成27年3月されたこと。更に、敦賀までの延伸についても完成目標が平成34年度となったことが微増につながったと推測される。

第2章 ネットワークで築く地域の個性・特色を生かした多機能都市づくり(続き)

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移							結果の分析	今後の方針	備考
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度				
23	212	地域交通ネットワーク	幹線道路整備延長	m	4,731 [H22]	8,231	目安値実績値	5,431	6,131	6,831	事業計画期間末期を迎え、工事完了する箇所が多かったことにより進捗が確保された	財源確保、コスト縮減に努め整備延長を確保する。		
							評価	順調	順調	順調				
							評価	順調	順調	順調				
24	212	地域交通ネットワーク	都市計画道路整備延長	m	59,527 [H22]	63,377	目安値実績値	60,297	61,067	61,837	中部横断自動車道の整備が進んだことにより、目標値を大幅に上回った。	すでに目標値を達成したが、今後も整備に努める。	目標達成	
							評価	順調	順調	順調				
							評価	順調	順調	順調				
25	212	地域交通ネットワーク	アダプトシステム管理箇所数	箇所	3 [H22]	19	目安値実績値	6	9	13	呼び掛けにより参加団体は増えたが、人員減等により活動を休止した団体もあり現状維持の状態である。	アダプトシステム事業を周知し、大勢の市民の方々に参加していただくように、普及を推進していく。		
							評価	順調	順調	順調				
							評価	順調	順調	順調				
26	212	地域交通ネットワーク	公共交通延べ利用者数	人/年	113,538 [H22]	125,000	目安値実績値	115,830	118,123	120,415	利用者は減少傾向にあったため、利用者ニーズ等を踏まえ、平成26年10月にダイヤ改正を行った。結果改正前よりも利用者は増加したが、年間では昨年より減少となった。	乗車体験イベント等更に公共交通の周知広報の実施と利用者ニーズの把握、利用者の多い路線の増便等を行い利用者の確保に努める。		
							評価	遅れている	遅れている	遅れている				
							評価	遅れている	遅れている	遅れている				

施策名：地域交通ネットワーク

- 地域幹線道路網の整備
- 生活道路の整備充実
- 道路の計画的な維持管理
- 地域公共交通の維持・見直し
- 広域的公共交通機能の充実



アンケート結果の分析

重要度は高い値で推移しているが、満足度は昨年度より低くなり、平均値を下回っている。
道路整備の面では地元からの多くの要望に応えられるよう効率的に業務を実施することによって、満足度向上を図る。
また、公共交通の面ではバス利用者アンケート調査等を参考に、平成26年10月に増減便等のダイヤ改正を行い運行しているが、今後の利用者の動向も踏まえ、より市民ニーズにあった公共交通の体系の構築を図っていく。

第2章 ネットワークで築く地域の個性・特色を生かした多機能都市づくり(続き)

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移						結果の分析	今後の方針	備考
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度			
27	221	土地利用	宅地面積	ha	2,337 [H21]	2,492	目安値実績値評価	2,368	2,399	2,430	住宅のための宅地需要の増加から、宅地面積が増加している反面、民間の事業展開のための工業用地の宅地化は、あまり進んでいない状況となっている。	雇用増加や定住者増加を目指し、適地において工業用地、商業用地などの宅地化の推進を図る。	
							2,378	2,386	2,404				
							順調	概ね順調	概ね順調				

施策名：土地利用

- 秩序ある土地利用の推進
- バランス良い都市構造の再構築
- 土地需要の調整と適正な土地利用の誘導
- 国土調査の推進

市民アンケート結果の推移	前々回調査(平成22年度)	前回調査(平成24年度)	最新調査(平成26年度)
		満足度指数(291) 重要度指数(382)	満足度指数(282) 重要度指数(380)
	エリア III 満足度「低い」重要度「低い」 ⇒ 状況をみた取組が必要と考えられる施策	エリア III 満足度「低い」重要度「低い」 ⇒ 状況をみた取組が必要と考えられる施策	エリア III 満足度「低い」重要度「低い」 ⇒ 状況をみた取組が必要と考えられる施策
	<p>重要度 4.8, 4.6, 4.4, 4.2, 4.0, 3.8, 3.6, 3.4</p> <p>満足度 2.0, 2.2, 2.4, 2.6, 2.8, 3.0, 3.2, 3.4, 3.6, 3.8</p> <p>平均値</p>	<p>重要度 4.4, 4.2, 4.0, 3.8, 3.6, 3.4, 3.2</p> <p>満足度 2.2, 2.4, 2.6, 2.8, 3.0, 3.2, 3.4, 3.6</p> <p>平均値</p>	<p>重要度 4.6, 4.4, 4.2, 4.0, 3.8, 3.6, 3.4, 3.2</p> <p>満足度 2.2, 2.4, 2.6, 2.8, 3.0, 3.2, 3.4, 3.6</p> <p>平均値</p>

アンケート結果の分析

・重要度、満足度とも平均値よりは低い値となっているが、大規模な土地利用が進展するまでには時間を要するため、対市民にとって効果が認識づらい。このことから、ともに低い数値となったものと考えられる。土地利用は、まちづくりの重要な要素であり、国土利用計画(佐久市計画)の方針に沿った土地利用を推進していくことが重要である。

第2章 ネットワークで築く地域の個性・特色を生かした多機能都市づくり(続き)

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移						結果の分析	今後の方針	備考
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度			
28	222	市街地	跡部臼田線・龍岡城駅線の整備率	%	0.4 [H22]	100	目安値実績値評価	20	40	60	事業計画に沿って事業が進捗している。	事業完了にむけて、今後も事業を進めていく。	
								32.46	46.18	78.24			
								順調	順調	順調			

施策名：市街地

- 良好な市街地の形成

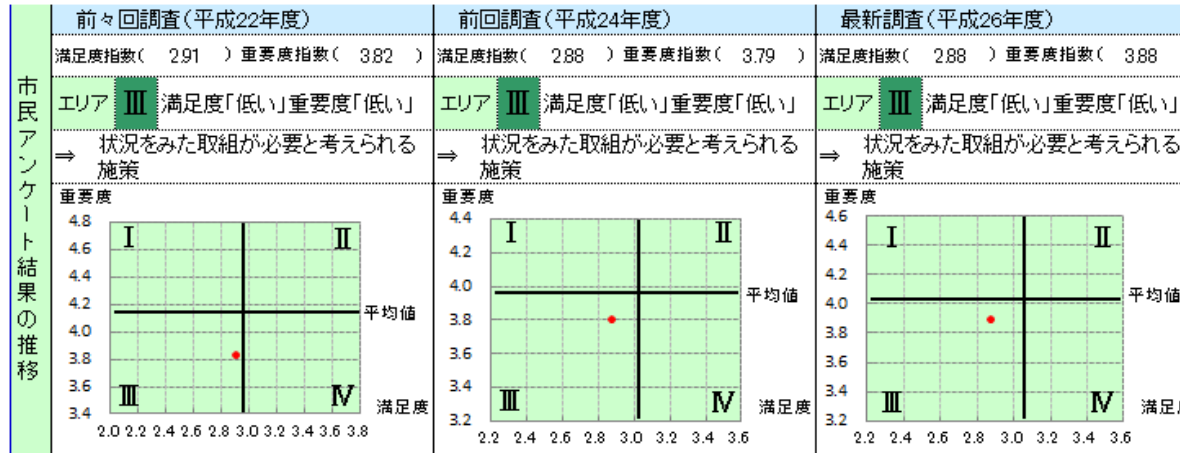
市民アンケート結果の推移	前々回調査(平成22年度)	前回調査(平成24年度)	最新調査(平成26年度)	アンケート結果の分析
		満足度指数(291) 重要度指数(382)	満足度指数(280) 重要度指数(380)	
	エリア III 満足度「低い」重要度「低い」 ⇒ 状況をみた取組が必要と考えられる施策	エリア III 満足度「低い」重要度「低い」 ⇒ 状況をみた取組が必要と考えられる施策	エリア I 満足度「低い」重要度「高い」 ⇒ 力を入れる必要性が高いと考えられる施策	満足度指数と重要度指数共に改善されている。均衡ある市域の発展と都市基盤の整備のため、計画的に区画整理事業などの都市計画事業を進めているが、事業に直接関係する市民と、そのほかの市民では、事業に対する理解度に大きな開きがあり、事業の重要度に対して低い結果となっていると思われる。しかし、将来を見据えた市街地整備は重要と考えており、今後も市民の理解を深めながら、事業に取り組んでいく必要があると考える。
	重要度 4.8 4.6 4.4 4.2 4.0 3.8 3.6 3.4	重要度 4.4 4.2 4.0 3.8 3.6 3.4 3.2	重要度 4.6 4.4 4.2 4.0 3.8 3.6 3.4 3.2	
	満足度 2.0 2.2 2.4 2.6 2.8 3.0 3.2 3.4 3.6 3.8	満足度 2.2 2.4 2.6 2.8 3.0 3.2 3.4 3.6	満足度 2.2 2.4 2.6 2.8 3.0 3.2 3.4 3.6	

第2章 ネットワークで築く地域の個性・特色を生かした多機能都市づくり(続き)

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移							結果の分析	今後の方針	備考
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度				
29	223	住宅・宅地	住宅マスタープランの策定		未策定 [H22]	策定	目安値	部分的策定	部分的策定	部分的策定	平成26年3月に策定した佐久市公営住宅長寿命化計画の中で公営住宅の維持管理を推進している。	市の公共施設マネジメント基本方針における公共施設再配置計画、平成28年度に策定される第2次総合計画、また、県の長寿命化計画の見直し状況等を勘案しながら、平成32年度以降の長寿命化計画の見直しを踏まえ、策定期間、内容について考える。		
						実績値	未策定	部分的策定	部分的策定					
						評価	遅れている	やや遅れている	やや遅れている					

施策名：住宅・宅地

- 総合的な住宅施策の方針策定
- 公営住宅の整備と管理
- 住宅・宅地の適正供給
- 質が高く安全な住環境の整備や空き家対策の充実
- 耐震改修の促進



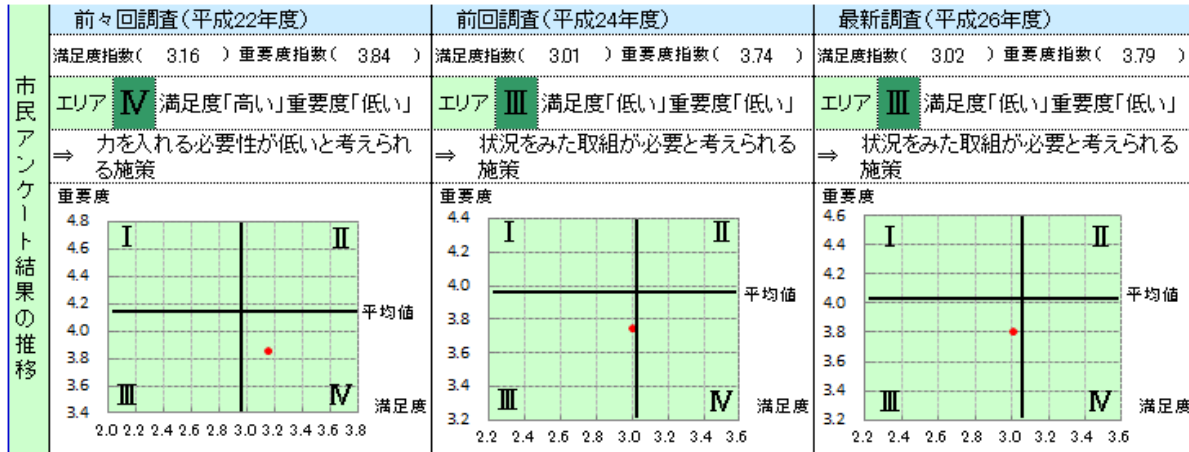
アンケート結果の分析
満足度は低い状況であるため、住環境の向上に資する施策や既存集落の道路環境の整備を進めることにより満足度を高めていく必要があると考えられる。
一方、重要度指数も他施策と比較して相対的に低く、住宅について大きな問題を有しないのか、重要であるという意識があまり高くないことがうかがえる。

第2章 ネットワークで築く地域の個性・特色を生かした多機能都市づくり(続き)

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移						結果の分析	今後の方針	備考
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度			
30	231	高度情報通信ネットワーク	電子申請の件数	件/年	289 [H22]	500	目安値	331	373	416	平成26年度は、イベント会場におけるアンケート回答に電子申請を活用し、直接来場者を誘導できた昨年に比べ減少した。イベント利用など特質なことを除き、電子申請の項目を増やすことが、利用者数の増加につなげる要因であると考え。	目標値を超える結果を維持するためには、利用項目を増やす必要があるため、働きかけを強化する。	目標達成
						実績値	909	1,658	771				
						評価	順調	順調	順調				

施策名：高度情報通信ネットワーク

- 地域情報化の推進
- 情報提供・情報発信の充実
- 行政・市民サービスの情報化
- 情報セキュリティ管理



アンケート結果の分析

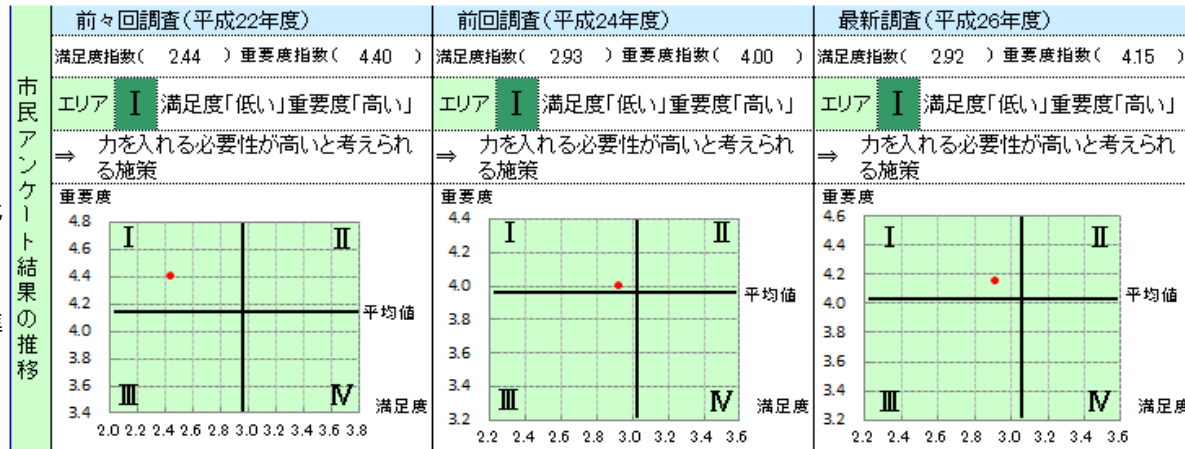
前回調査と比較し、横ばいの状態と判断できる。
市内全域にブロードバンド環境が整い、誰もがインターネットを無理なく利用できるようになってきているが、行政手続き等において電子化が進まない事業があるなど、市民満足度・重要度が向上しない要因と思われる。
今後は、市民生活が向上となるICT利活用向上のためのニーズの把握と、施策を見直す必要があると考える。

第3章 100万経済圏を目指した産業基盤の強化と新たな産業の創出

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移							結果の分析	今後の方針	備考
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度				
31	311	農業	認定農業者数	経営体	268 [H22]	310	目安値実績値 評価	276	285	293	毎年新規で認定する農業者は10名前後いるが、高齢農業者が増えて更新をしないため全体として減少傾向にある。	農業後継者等若い農業者へ認定農業者制度を理解してもらい、育成することで目標の達成を目指す。		
					270	269	247							
					やや遅れている	遅れている	遅れている							
32					農業アシスタント数	人	20 [H22]	70	目安値実績値 評価	30	40	50	花きのアシスタント講習の他、平成25年度から野菜のアシスタント講習会を開催したところ、新規就農者をはじめとしてアシスタント講習の受講者が増加した。	様々な品目の講習を開催し、受講者を増やす。
						18	23	31						
						遅れている	遅れている	やや遅れている						
33			農業法人数	法人	16 [H22]	20	目安値実績値 評価	17	18	18	人・農地プランの作成による農地利用集積の推進や、農の雇用事業の活用支援などを行っており、経営の安定化を図るため、法人化する農業者が増加している。	国の事業等を利用しながら、法人化を目指す農業者を支援する。	目標達成	
							21	22	21					
							順調	順調	順調					
34			農畜産物産出額	億円/年	108 [H18]	110	目安値実績値 評価	データ入手不可能			(本項目は、国が市町村別の統計調査を行っていたが、平成18年度調査を最後に調査が行われなくなった。現在、全国市長会を通じて、国に対し、調査の復活の要望を行っている。)			

施策名：農業

- 農業経営構造の確立
- 優良農地の保全
- 農業生産の振興と食料の安定供給の確保
- 農業・農村の多面的機能（食文化の形成・伝承など）の向上
- 農業基盤（水路や農道）整備の推進
- 農商工連携による地産地消の推進



アンケート結果の分析

重要度指数は4.15であり、他の施策と比較して平均値より高くなっており、農業が重要であることが伺える。他方、満足度指数は2.92と他施策と比較して低くなっており、今後は、事業費などの行政の投入資源をさらに増やす必要性は高いと判断する。

今後は、就農希望相談会や経営改善計画作成支援の機会を増やし、認定農業者の育成を図る。また、新規就農者への定着の支援や農地流動化を奨励することにより、満足度を高めていくことが望ましいと考える。

第3章 100万経済圏を目指した産業基盤の強化と新たな産業の創出(続き)

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移						結果の分析	今後の方針	備考
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度			
35	312	水産業	佐久鯉出荷量	t/年	110 [H22]	115	目安値	111	112	113	各種イベントによる試食、PR用パンフレット、CDの作成その他、広報誌への佐久鯉料理の掲載等により佐久鯉の周知を行い消費量の拡大を図っているが、食文化の変化などにより需要は減少傾向である。	料理教室などを開催し、佐久鯉の様々な調理をPRする中で、需要の拡大を図る。	
						実績値	99	99	90				
						評価	遅れている	遅れている	遅れている				

施策名：水産業

- 内水面漁業（淡水での漁業）の振興
- 佐久鯉のブランド化促進及び商業・観光業と連携した水産業の多面的な振興

市民アンケート結果の推移	前々回調査(平成22年度)	前回調査(平成24年度)	最新調査(平成26年度)
		満足度指数(257) 重要度指数(4.16)	満足度指数(3.01) 重要度指数(3.47)
	エリア I 満足度「低い」重要度「高い」 ⇒ 力を入れる必要性が高いと考えられる施策	エリア III 満足度「低い」重要度「低い」 ⇒ 状況をみた取組が必要と考えられる施策	エリア IV 満足度「高い」重要度「低い」 ⇒ 力を入れる必要性が低いと考えられる施策
	重要度 4.8 4.6 4.4 4.2 4.0 3.8 3.6 3.4 満足度 2.0 2.2 2.4 2.6 2.8 3.0 3.2 3.4 3.6 3.8	重要度 4.4 4.2 4.0 3.8 3.6 3.4 3.2 満足度 2.2 2.4 2.6 2.8 3.0 3.2 3.4 3.6	重要度 4.6 4.4 4.2 4.0 3.8 3.6 3.4 3.2 満足度 2.2 2.4 2.6 2.8 3.0 3.2 3.4 3.6

アンケート結果の分析
アンケート結果では、力を入れる必要性が低いと考えられる施策との分析であるが、イベントなどをはじめ水産業の消費拡大推進を図らないと、佐久市を代表する佐久鯉をはじめシナノユキマスなどの水産業の衰退に繋がる。地域の歴史や文化を後代に継承していくためにも地場産業として振興を図る必要がある。

第3章 100万経済圏を目指した産業基盤の強化と新たな産業の創出(続き)

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移						結果の分析	今後の方針	備考
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度			
36	313	林業	森林整備面積	ha/年	610 [H22]	780	目安値実績値評価	644	678	712	平成26年度市内森林整備(民間事業者含む)については、県において集計を行うが9月末現在において集計中とのこと。	木材の需要拡大に向け、関係団体との協議を進める中で、森林整備を推進する。	
								430	520	集計中			
								遅れている	遅れている				

施策名：林業

- 林業生産の振興
- 森林の保全
- 森林の多面的機能(健康づくりや観光、レクリエーションなど)の活用

市民アンケート結果の推移	前々回調査(平成22年度)	前回調査(平成24年度)	最新調査(平成26年度)
		満足度指数(319) 重要度指数(359)	満足度指数(284) 重要度指数(377)
	エリアⅣ 満足度「高い」重要度「低い」 ⇒ 力を入れる必要性が低いと考えられる施策	エリアⅢ 満足度「低い」重要度「低い」 ⇒ 状況をみた取組が必要と考えられる施策	エリアⅢ 満足度「低い」重要度「低い」 ⇒ 状況をみた取組が必要と考えられる施策
	重要度 4.8 4.6 4.4 4.2 4.0 3.8 3.6 3.4 2.0 2.2 2.4 2.6 2.8 3.0 3.2 3.4 3.6 3.8 満足度	重要度 4.4 4.2 4.0 3.8 3.6 3.4 3.2 2.2 2.4 2.6 2.8 3.0 3.2 3.4 3.6 満足度	重要度 4.6 4.4 4.2 4.0 3.8 3.6 3.4 3.2 2.2 2.4 2.6 2.8 3.0 3.2 3.4 3.6 満足度

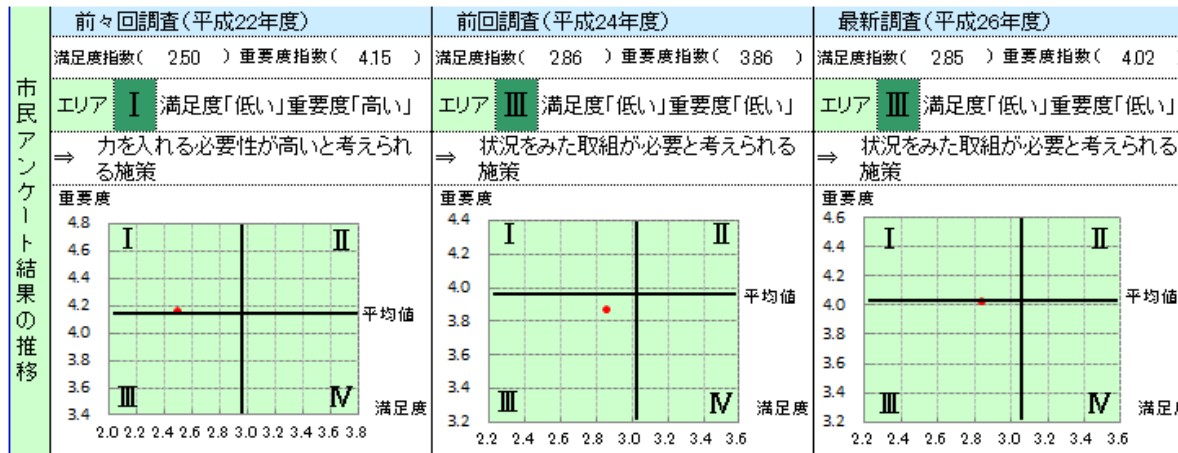
アンケート結果の分析
満足度は低い状況であるため、林業に資する施策を進めることにより満足度を高めていく必要があると考えられる。 一方、重要度指数も他施策と比較して相対的に低く、林業について大きな問題を有しないのか、重要であるという意識があまり高くないことがうかがえる。今後森林の大切さを知っていただくためPRを行っていく。

第3章 100万経済圏を目指した産業基盤の強化と新たな産業の創出(続き)

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移								
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度	結果の分析	今後の方針	備考
37	321	商業・サービス業	商品販売額	億円/年	1,994 [H19]	2,100	目安値実績値	2,015	2,036	2,058	H26の経済センサス(法務省統計局実施の経済構造統計調査)の調査結果を注視していきたい。	H26年度より空き店舗対策に伴う、補助金を活用していただき、空き店舗の解消に努め商店街の環境整備を図り商品販売額の増加を目指す。	
						評価	遅れている	実績値なし	実績値なし				

施策名：商業・サービス業

- 商業経営の体質強化
- 魅力ある商店街の形成
- 商業立地のバランスと利便性の確保
- 流通・サービス業の振興
- 新たな商品開発とブランド化の促進



アンケート結果の分析

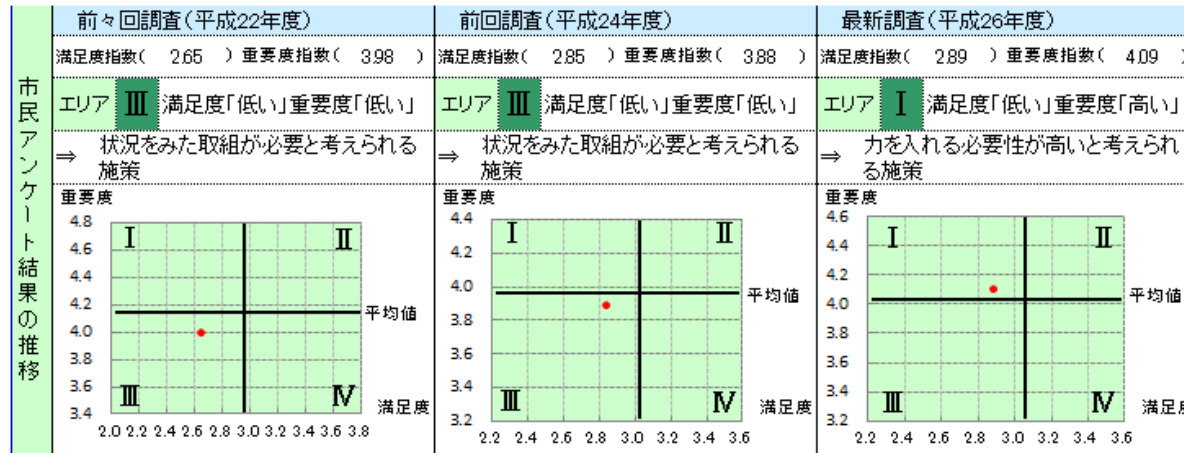
今回の調査で重要度が上昇し、満足度は変わらない状況ですが、これは既存商店街で空き店舗が点在する状況にあり、地域の活力が失われつつあることによるものと思われることから、空き店舗対策事業補助金等の補助金を活用して頂けるよう周知を図って行く。

第3章 100万経済圏を目指した産業基盤の強化と新たな産業の創出(続き)

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移						結果の分析	今後の方針	備考
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度			
38	331	観光	市内への延べ入込客数	万人/年	162 [H22]	190	目安値実績値評価	168	173	179	入り込み客数は目標値には届かなかったものの誘客や広告の宣伝を積極的に行ったことで前年よりも数値が伸びた。	インターネットや雑誌などの広告を使った効果的な観光宣伝を展開し積極的に観光誘客宣伝を進めていく。	

施策名：観光

- 観光振興施策の推進
- 観光基盤の整備
- 観光の情報発信
- 農林水産業や商工業との連携による体験型観光や土産品の開発の促進



アンケート結果の分析

市民アンケートの結果では、平成24年度の調査と同様に満足度は「低い」結果であったが、重要度では、平成24年度の「低い」から平成26年度は「高い」と評価をされている。これは、平成25年度に佐久市内に訪れた観光客数が148万人に対し、平成26年度は159万人と11万人の増となっていることから、重要度が上がった要因と思われる。しかし、市内にある観光施設の老朽化が危惧されていることから、計画的に改修を進める中で観光客のニーズにあった事業展開を行う必要がある。今後も、市民に佐久市の観光のあり方を理解していただきながら、観光客の増加につながる施策の展開、観光イベントの内容の充実を図り、PR活動を積極的に行い、入込客数の増加を図ることにより経済効果を求めていく必要がある。

第3章 100万経済圏を目指した産業基盤の強化と新たな産業の創出(続き)

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移						結果の分析	今後の方針	備考
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度			
39	341	工業	製造品出荷額	億円/年	2,061 [H22]	2,500	目安値	2,149	2,237	2,324	集計中	平成27年度において、新たな助成制度として、①海外から国内回帰する企業に対する補助(プロジェクトR)、②市内既存企業を対象に工場等の建設・設備導入経費に対する補助を創設した。また、企業単独での展示会等への出展に対し補助金を交付する販路拡大支援事業を創設し、企業への制度の活用を促し、目標達成に向け取り組んでいく。	
						実績値	1,703	1,932	集計中				
						評価	遅れている	遅れている	実績値なし				

施策名：工業

- ものづくり産業の育成
- 工業基盤の整備と活用
- 企業誘致の推進
- 農業・観光施策との連携、異業種連携、大学との連携の促進
- 高度な技術や能力を持った人材の育成

市民アンケート結果の推移	前々回調査(平成22年度)	前回調査(平成24年度)	最新調査(平成26年度)
		満足度指数(256) 重要度指数(4.18)	満足度指数(282) 重要度指数(4.02)
	エリア I 満足度「低い」重要度「高い」 ⇒ 力を入れる必要性が高いと考えられる施策	エリア I 満足度「低い」重要度「高い」 ⇒ 力を入れる必要性が高いと考えられる施策	エリア I 満足度「低い」重要度「高い」 ⇒ 力を入れる必要性が高いと考えられる施策
	重要度 4.8 4.6 4.4 4.2 4.0 3.8 3.6 3.4 2.0 2.2 2.4 2.6 2.8 3.0 3.2 3.4 3.6 3.8 満足度	重要度 4.4 4.2 4.0 3.8 3.6 3.4 3.2 2.2 2.4 2.6 2.8 3.0 3.2 3.4 3.6 満足度	重要度 4.6 4.4 4.2 4.0 3.8 3.6 3.4 3.2 2.2 2.4 2.6 2.8 3.0 3.2 3.4 3.6 満足度

アンケート結果の分析
満足度指数は、前回調査調査に比べて微増しており、事業実施の成果はあらわれていると思われる。市民の重要だとの認識に対して、満足度として結果が出ていないことは、施策が広く市民に影響を与えるものでなく、間接的に影響を与えるものであるためと考える。
企業に助成制度を活用していただけるよう、より一層PRに努め企業立地の推進と市内工業の活性化を図り、目標の達成を目指す。

第3章 100万経済圏を目指した産業基盤の強化と新たな産業の創出(続き)

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移						結果の分析	今後の方針	備考
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度			
40	351	就労・雇用	就職相談会参加者数	人/年	113 [H22]	130	目安値実績値評価	116	120	123	就職ガイダンスに参加する企業を増やしたことのより、参加者が増加した。	ひとりでも多くの学生が市内企業へ就職してもらえるよう、就職相談会への参加者増を目指す。	
41			インターンシップ実施学生数	人/年	7 [H22]	15	目安値実績値評価	9	10	12	受入事業所は10社程度のため、受入事業所を増やすことが目標達成に必要である。	参加する学生への補助制度をつくり、参加者増加を目指す。	

施策名：就労・雇用

- 雇用機会の確保・創出
- 労働力の確保
- 勤労者福祉の充実

市民アンケート結果の推移	前々回調査(平成22年度)	前回調査(平成24年度)	最新調査(平成26年度)
		満足度指数(2.03) 重要度指数(4.64)	満足度指数(2.46) 重要度指数(4.38)
	エリア I 満足度「低い」重要度「高い」 ⇒ 力を入れる必要が高いと考えられる施策	エリア I 満足度「低い」重要度「高い」 ⇒ 力を入れる必要が高いと考えられる施策	エリア I 満足度「低い」重要度「高い」 ⇒ 力を入れる必要が高いと考えられる施策

アンケート結果の分析
重要度指数は4.39で平均を大きく上回っており、働く機会・働く環境が重要視されている。一方満足度指数は前回より0.18ポイント改善されているが、平均を大きく下回っていることから、ハローワーク等の関係機関と連携し、就労・雇用対策を講じていくことが必要と考えられる。

第4章 みんなが生涯現役で住みよい健康長寿のまちの形成

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移								
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度	結果の分析	今後の方針	備考
42	411	福祉のまちづくり	福祉体験教室開催回数	回/年	14 [H22]	16	目安値実績値	14	15	15	多くの学校等に事業の目的を説明し、協力を得て体験教室を開催できたが、小中学校で総合学習の時間が減少していること、学校独自に実施していることなどから、目標値に達しなかった。	今後も多くの学校に事業の目的を説明し、体験教室を開催することによりボランティア意識の向上を図る。	
						評価	遅れている	順調	遅れている				

施策名：福祉のまちづくり

- 障がいのあるなしにかかわらず支え合える地域福祉の推進
- 福祉に関するボランティア活動の促進
- 障がい者や高齢者の社会参加の促進

市民アンケート結果の推移	前々回調査(平成22年度)	前回調査(平成24年度)	最新調査(平成26年度)
		満足度指数(3.03) 重要度指数(4.18)	満足度指数(3.07) 重要度指数(4.16)
	エリア II 満足度「高い」重要度「高い」 ⇒ 現状維持が妥当と考えられる施策	エリア II 満足度「高い」重要度「高い」 ⇒ 現状維持が妥当と考えられる施策	エリア I 満足度「低い」重要度「高い」 ⇒ 力を入れる必要性が高いと考えられる施策
	重要度 4.8 4.6 4.4 4.2 4.0 3.8 3.6 3.4 2.0 2.2 2.4 2.6 2.8 3.0 3.2 3.4 3.6 3.8 満足度	重要度 4.4 4.2 4.0 3.8 3.6 3.4 3.2 2.2 2.4 2.6 2.8 3.0 3.2 3.4 3.6 満足度	重要度 4.6 4.4 4.2 4.0 3.8 3.6 3.4 3.2 2.2 2.4 2.6 2.8 3.0 3.2 3.4 3.6 満足度

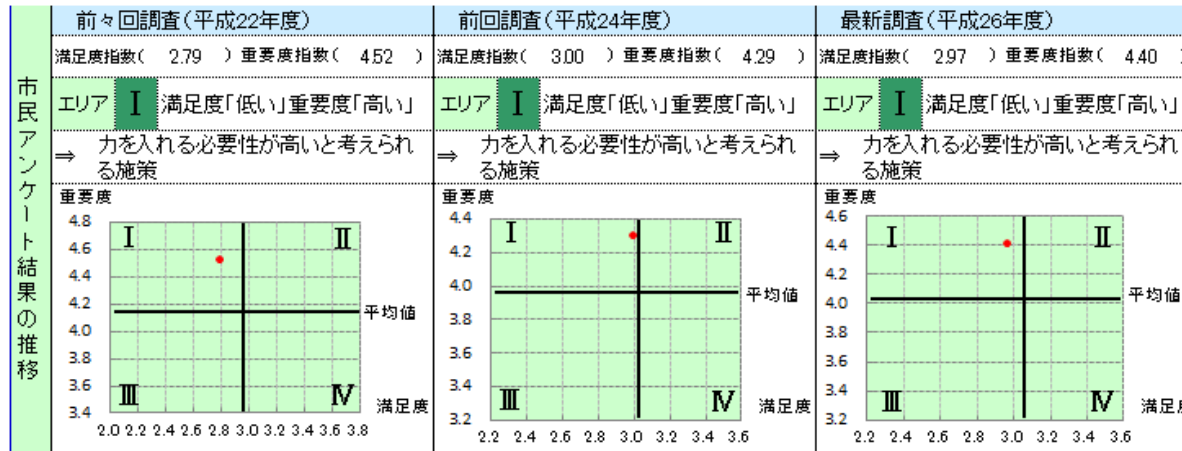
アンケート結果の分析
地域福祉については、市民の意識は年々高くなるとともに、ニーズが多様化しているため、重要度は高いが満足度は低い結果になったと考えられる。ニーズを捉えた施策展開が図れるよう検討する。

第4章 みんなが生涯現役で住みよい健康長寿のまちの形成(続き)

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移						結果の分析	今後の方針	備考
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度			
43	412	高齢者福祉・介護保険	介護予防事業の延べ参加者数	人/年	19,095 [H22]	23,500	目安値	19,976	20,857	21,738	二次予防高齢者施策では、介護予防に対する保健師・看護師の訪問体制の充実、職員のアプローチ技術の向上により、該当者の介護予防の必要性について理解が得られやすくなったことから、介護予防ふれあいサロン事業の参加者が増加した。一般高齢者施策では、積極的なPRを地区サロンや広報等で行ったことに加え、現に参加者の満足度が高いことから、参加者を通じた口コミによる伝播により、各事業の参加者が増加した。	今後もこの水準を維持していきたい。	目標達成
						実績値	20,000	23,781	24,369				
						評価	順調	順調	順調				

施策名：高齢者福祉・介護保険

- 高齢者支援サービスの推進
- 高齢者福祉施設の整備
- 介護保険の適正な運営
- 成年後見制度の利用促進



アンケート結果の分析

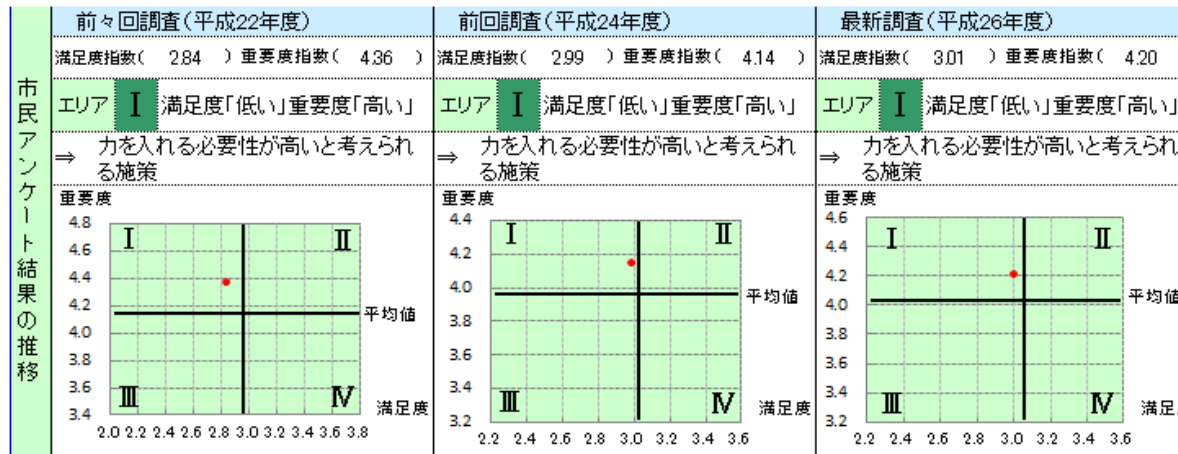
重要度指数が「4.40」と高いにもかかわらず、満足度が「2.97」と低い。介護予防事業に関しては一層の市民への周知と住民自らが介護予防(活動)の大切さを認識するための動機付けをする広報活動が必要である。併せて介護保険料負担と給付等のバランスにも配慮するなかで「在宅介護」並びに「施設介護」の介護基盤の整備充実を推進することで満足度を高めていく。

第4章 みんなが生涯現役で住みよい健康長寿のまちの形成(続き)

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移						結果の分析	今後の方針	備考
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度			
44	413	障がい者福祉	相談支援事業実施事業所数	事業所	5 [H22]	20	目安値	8	11	14	障害者総合支援法の改正により、平成26年度末までに、全ての福祉サービス利用者にサービス等利用計画の作成が義務付けられたことから、福祉サービス事業所に、計画を作成する指定相談支援事業所の開設について働きかけた結果、事業所の増加につながった。	障がい(児)者の自立と社会参加のため、相談支援事業所及び相談支援専門員等と連携協力するなかで、引き続き相談支援専門員の資格取得をお願いし、相談支援体制の充実を図り、利用者の満足度を高められるよう事業を実施していく。	
						実績値	11	12	14				
						評価	順調	順調	順調				

施策名：障がい者福祉

- 障がい者福祉サービスの充実
- 障がい児及び発達に気になる児童などに対する支援
- 障がい者施設の充実
- 障がい者の社会参加の支援



アンケート結果の分析

重要度指数は、平均値の中上位に位置しており、市行政において重要な施策のひとつであることが伺える。一方、満足度指数は平均値より低く、より一層の事業の充実が必要と考える。事業所と行政が連携し相談支援体制の充実を図るなかで、障がい(児)者のニーズを的確に把握し、障害者福祉サービスを提供することにより、満足度を高めていく事が望ましいと考える。

第4章 みんなが生涯現役で住みよい健康長寿のまちの形成(続き)

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移						結果の分析	今後の方針	備考							
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度										
45	414	母子父子福祉・低所得者福祉	高等技能訓練促進費・自立支援教育訓練給付金受給者数	人/年	4 [H22]	6	目安値実績値評価	4	5	5	6	6	6	6	順調	順調	順調	広報やHPでの制度の周知を努めたことにより、受給者数が順調に推移している。	母子家庭等の経済的な自立を支援するため、広報やHPでの諸制度の周知と利用拡大を図る。	目標達成

施策名：母子父子福祉・低所得者福祉

- 母子・父子家庭福祉の充実
- 低所得者福祉の充実

市民アンケート結果の推移	前々回調査(平成22年度)	前回調査(平成24年度)	最新調査(平成26年度)
		満足度指数(2.75) 重要度指数(4.15)	満足度指数(2.94) 重要度指数(3.90)
	エリア I 満足度「低い」重要度「高い」 ⇒ 力を入れる必要性が高いと考えられる施策	エリア III 満足度「低い」重要度「低い」 ⇒ 状況をみた取組が必要と考えられる施策	エリア III 満足度「低い」重要度「低い」 ⇒ 状況をみた取組が必要と考えられる施策

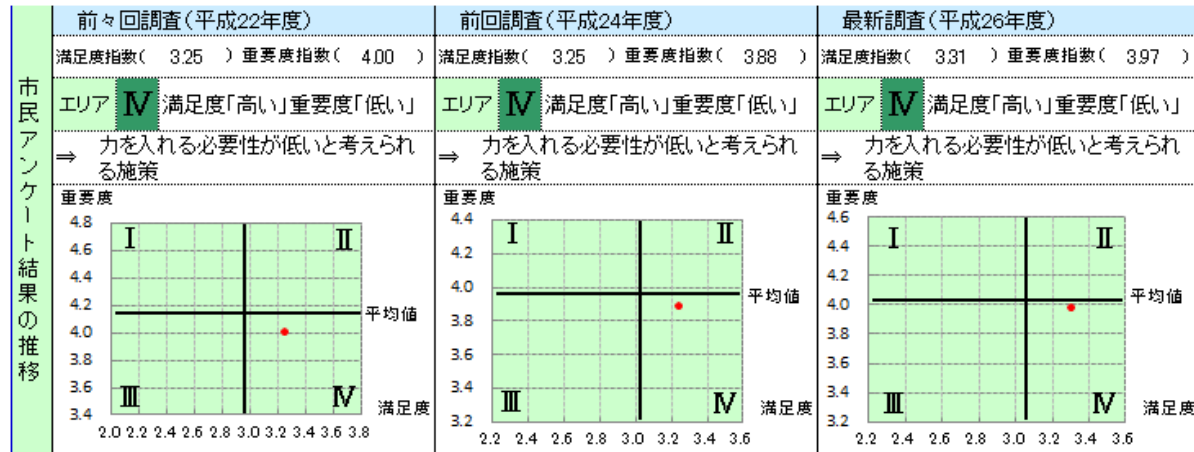
アンケート結果の分析
<p>指数では満足度指数が2.91で前回調査より低下していることから、ひとり親家庭の自立に向けた施策について、県やハローワーク等と連携し、雇用形態の改善など、経済的安定に繋がる支援を充実させ、満足度を高めていくことが望ましいと考える。</p>

第4章 みんなが生涯現役で住みよい健康長寿のまちの形成(続き)

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移						結果の分析	今後の方針	備考
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度			
46	421	健康増進	ぴんころステーション延べ参加者数	人/年	1,715 [H22]	2,000	目安値	1,772	1,829	1,886	栄養士会佐久支部との分担により回数を減らしたため、野沢山門市における参加者数は減少した。また、保健補導員2年目任期の影響により、補導員活動としての開催が少なかったことが減少につながった。	メタボリックシンドローム該当者や脳血管疾患による死亡割合は、依然として多い状況であるため、望ましい食習慣獲得のために講座の実施箇所拡大を図っていく。	
							実績値	1,080	1,286	1,228			
							評価	遅れている	遅れている	遅れている			
47			3歳児のむし歯保有率	%	26.71 [H22]	20.00	目安値	25	24	23	平成25年度からむし歯の判定基準を改めたため、むし歯保有率が上がったが、25年度よりは若干ではあるが改善されている。	子どもの歯の教室等、様々な機会を有効に活用し、むし歯保有率の減少を図る。	
							実績値	20.89	25.12	24.89			
							評価	順調	やや遅れている	やや遅れている			

施策名：健康増進

- 地域保健組織（保健補導員会など）の育成
- 健康づくり活動の推進
- 食育の推進
- 健康管理システムの整備



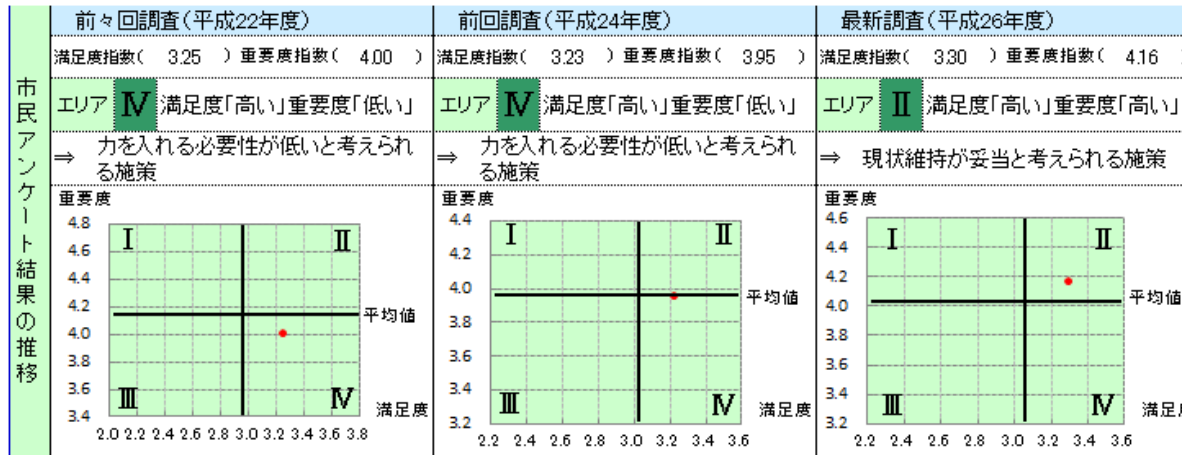
アンケート結果の分析
満足度が平均より高い状態が継続しているのは、健診や保健予防活動、食育推進事業に対する理解が得られていると考える。しかし、重要度は、平均値以下の状態が継続している。今後、健康増進の重要性について、さらに周知を図る。

第4章 みんなが生涯現役で住みよい健康長寿のまちの形成(続き)

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移						結果の分析	今後の方針	備考
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度			
48	422	保健活動	メタボリックシンドローム該当者・予備軍の割合	%	25.2 [H22]	15.2	目安値	23	21	19	割合は大きく変化していないが、長野県平均は25.2%であり、当市は平均的な値である。変化のない要因としては、健診者の増加により、対象者が増えていること、個別健診や人間ドックなどの受診者への事後指導や特定保健指導実施率が低いことが考えられる。	医療機関との連携を図り、事後指導や、特定保健指導、結果報告会での指導を充実させる。指導するスタッフの力量形成も行っていく。	
						実績値	26.6	25.4	集計中				
						評価	遅れている	遅れている	実績値なし				

施策名：保健活動

- 生活習慣病予防の推進
- 高齢者保健の充実
- 感染症予防対策の推進
- 精神保健の充実



アンケート結果の分析

重要度が平均値以上となり、ポピュレーションアプローチ等により市民の方の意識が高くなっている。満足度も高く、健診や保健予防活動、食育推進事業などニーズにあった活動を行っているのではないかと考える。今後もより一層、充実した活動を行うていく必要がある。

第4章 みんなが生涯現役で住みよい健康長寿のまちの形成(続き)

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移						結果の分析	今後の方針	備考
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度			
49	423	医療	浅間総合病院第二次整備事業進捗率	%	0 [H22]	100	目安値実績値評価	20	40	60	入札の不調により契約が2か月遅れたが、契約後の工程表に対する進捗状況の遅れはない。	音・振動により工事を休止せざるを得ない場合があるので、監理者・施工者との連絡を密にし、前倒して工事が進められるようにする。	
							4.55	7.00	18				
							やや遅れている	遅れている	遅れている				

施策名：医療

- 地域医療体制の充実
- 浅間総合病院の充実

市民アンケート結果の推移	前々回調査(平成22年度)	前回調査(平成24年度)	最新調査(平成26年度)
		満足度指数(2.93) 重要度指数(4.57)	満足度指数(3.11) 重要度指数(4.27)
	エリア I 満足度「低い」重要度「高い」 ⇒ 力を入れる必要性が高いと考えられる施策	エリア II 満足度「高い」重要度「高い」 ⇒ 現状維持が妥当と考えられる施策	エリア II 満足度「高い」重要度「高い」 ⇒ 現状維持が妥当と考えられる施策

アンケート結果の分析

満足度は、調査を重ねるごとに上昇しており、また、平成26年度調査においては、前回に引き続き満足度、重要度ともに平均値も上回る結果となった。依然市民の関心が高いことから、今後も満足度、重要度を上昇させるために、現事業を継続していく。

第4章 みんなが生涯現役で住みよい健康長寿のまちの形成(続き)

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移						結果の分析	今後の方針	備考
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度			
50	424	医療保険・国民年金	国民健康保険税収納率(現年課税分)	%	90.26 [H22]	100	目安値実績値評価	92	94	96	督促・催告状の発送・臨戸訪問・全職員での滞納整理、未申告者への申告勧奨を継続的に行っているが、大きな効果が見られない。	督促・催告状の発送・臨戸訪問・全職員での滞納整理、未申告者への申告勧奨を継続するとともに、専任徴収員を配置し、収納対策を強化する。	
								概ね順調	概ね順調	やや遅れている			

施策名：医療保険・国民年金

- 国民健康保険の健全運営
- 後期高齢者医療制度への対応
- 国民年金制度の適正な推進

市民アンケート結果の推移	前々回調査(平成22年度)	前回調査(平成24年度)	最新調査(平成26年度)
		満足度指数(291) 重要度指数(4.32)	満足度指数(282) 重要度指数(4.24)
	エリア I 満足度「低い」重要度「高い」 ⇒ 力を入れる必要性が高いと考えられる施策	エリア I 満足度「低い」重要度「高い」 ⇒ 力を入れる必要性が高いと考えられる施策	エリア I 満足度「低い」重要度「高い」 ⇒ 力を入れる必要性が高いと考えられる施策

アンケート結果の分析
<p>重要度指数は4.28であり、国民健康保険、後期高齢者医療制度、年金制度に対する市民の認識は高いことがうかがえる。一方、満足度指数は3.01であり、重要度指数に比べると低い傾向にあるが、前回調査より微増している。わずかではあるが啓発活動の効果がかがえる。今後も国民健康保険・年金制度についての周知を工夫するとともに、国保税の収納については専任徴収員を配置するなど、対策を強化する。</p>

第4章 みんなが生涯現役で住みよい健康長寿のまちの形成(続き)

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移						結果の分析	今後の方針	備考
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度			
51	431	母子保健	こんにちは赤ちゃん事業における新生児訪問率	%	96 [H22]	100		目安値 97	98	98	こんにちは赤ちゃん事業の周知は、母子手帳交付時、パパママ教室、出産での入院時、出生届出時の機会に実施している。また、訪問担当職員のアプローチ技術の向上により該当者に新生児訪問指導の必要性について理解を得られていると考える。	訪問担当職員の確保により、生後4か月以内の実施を強化していく。	
							実績値 97.80	98.00	98.00				
							評価 順調	順調	順調				

施策名：母子保健

- 母子保健事業（乳幼児健診、乳幼児の予防接種など）の推進
- 思春期保健事業（いのちの尊さを学び母性父性を育む 機会の充実）の推進

市民アンケート結果の推移	前々回調査(平成22年度)	前回調査(平成24年度)	最新調査(平成26年度)
		満足度指数(3.30) 重要度指数(4.21)	満足度指数(3.14) 重要度指数(4.07)
	エリア II 満足度「高い」重要度「高い」	エリア II 満足度「高い」重要度「高い」	エリア II 満足度「高い」重要度「高い」
	⇒ 現状維持が妥当と考えられる施策	⇒ 現状維持が妥当と考えられる施策	⇒ 現状維持が妥当と考えられる施策

アンケート結果の分析
満足度指数、重要度指数は平均値より高い状況である。また、前回の調査より満足度指数が上昇している。これは研修等により、訪問担当者の技術が向上したことが要因と考えられる。重要度指数も高いため、市民のニーズ変化を把握しながら事業を展開していきたい。

第4章 みんなが生涯現役で住みよい健康長寿のまちの形成(続き)

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移						結果の分析	今後の方針	備考
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度			
52			子育てサロンの延べ利用者数	人/年	7,908 [H22]	8,300	目安値	7986	8,065	8,143	育児講座や親子遊びの充実、また、広報やHPでの開催周知に努めたことで、目標値を上回る利用者数となった。	育児不安の軽減を図るため、利用者アンケート結果や要望をスタッフ会議で検討し、事業に反映する。	
							実績値	8,753	8,857	8,261			
							評価	順調	順調	順調			
53	432	子育て支援・児童福祉	つどいの広場の延べ利用者数	人/年	15,099 [H22]	15,800	目安値	15,239	15,379	15,520	「運動遊び」や「ベビーマッサージ」など、参加者から要望の多い子育て講座を開催したことにより、少子化傾向の中、1回あたりの平均利用者数が前年と比べ5%増加した。(H25:614回、23.1人→ H26:625回、24.4人)	・参加者の要望が多い「リトミック」や、対象範囲を幼児まで広げ「ベビー・キッズマッサージ」を開催する。 ・今後も参加者からのアンケート結果を基に改善点等についてスタッフ会議で検討し、参加者の増加を図る。 ・子育てサークル等の活動実態を把握し、場阿諾を提供するなどの活動支援を行う。 ・県と連携し、仕事に対する不安や悩みを抱えた子育て世帯の女性に対する相談支援を行う。	
							実績値	14,370	14,206	15,264			
							評価	遅れている	遅れている	やや遅れている			
54			児童館の延べ利用者数	人/年	303,975 [H22]	319,000	目安値	306,980	309,985	312,990	児童館で行う各種行事を、子ども達に計画・運営させたり、季節のイベントを取り入れるなど、子ども達が普段体験することができない行事を行ったことで、利用者数は昨年より増加した。しかし、少子化傾向に加え、塾通いなど、児童の放課後の過ごし方が多様化している背景から、目標値に届かない状況である。	今後も児童に行事の企画に参加してもらおうなど、児童が継続的に楽しく来館できるような工夫を図るとともに、地域ボランティアとの連携や、各種研修への参加等による児童館職員の質の向上を図り、保護者が安心して子どもを児童館に通わせられる環境に努める。	
							実績値	280,265	273,510	277,110			
							評価	遅れている	遅れている	遅れている			

施策名：子育て支援・児童福祉

- 子育て支援ネットワークの拡充
- 保育サービスの充実
- 児童館の整備と運営

	前々回調査(平成22年度)	前回調査(平成24年度)	最新調査(平成26年度)
	満足度指数(3.30) 重要度指数(4.31)	満足度指数(3.20) 重要度指数(4.10)	満足度指数(3.13) 重要度指数(4.18)
市民アンケート結果の推移	エリア II 満足度「高い」重要度「高い」 ⇒ 現状維持が妥当と考えられる施策	エリア II 満足度「高い」重要度「高い」 ⇒ 現状維持が妥当と考えられる施策	エリア II 満足度「高い」重要度「高い」 ⇒ 現状維持が妥当と考えられる施策
	<p>重要度: 4.8, 4.6, 4.4, 4.2, 4.0, 3.8, 3.6, 3.4 満足度: 2.0, 2.2, 2.4, 2.6, 2.8, 3.0, 3.2, 3.4, 3.6, 3.8 平均値: 4.2 (重要度), 3.2 (満足度)</p>	<p>重要度: 4.4, 4.2, 4.0, 3.8, 3.6, 3.4, 3.2 満足度: 2.2, 2.4, 2.6, 2.8, 3.0, 3.2, 3.4, 3.6 平均値: 4.0 (重要度), 3.2 (満足度)</p>	<p>重要度: 4.6, 4.4, 4.2, 4.0, 3.8, 3.6, 3.4, 3.2 満足度: 2.2, 2.4, 2.6, 2.8, 3.0, 3.2, 3.4, 3.6 平均値: 4.0 (重要度), 3.1 (満足度)</p>

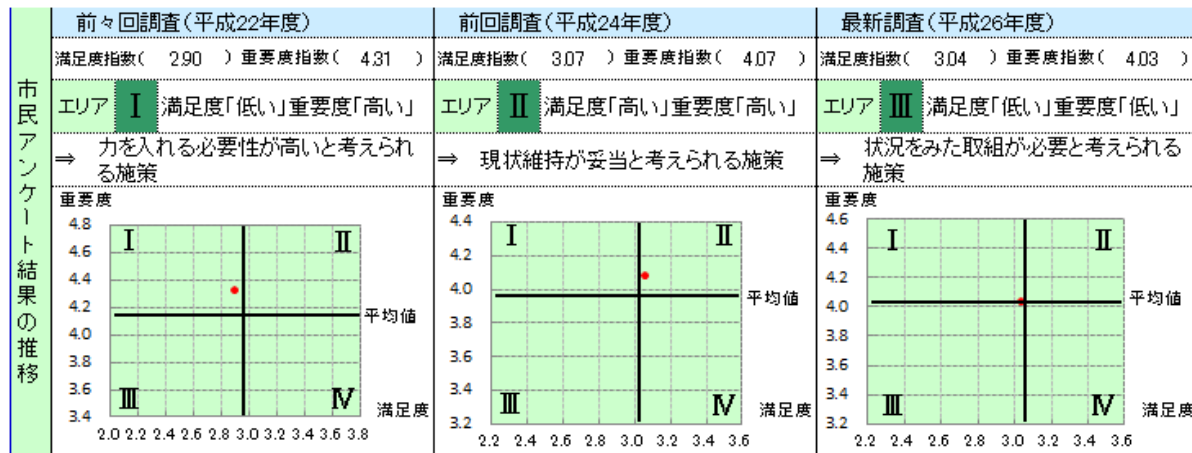
アンケート結果の分析
満足度指数が3.13で年々低下傾向にあることから、結婚・妊娠・出産・子育ての各段階において、個別ニーズに対応した施策を関係機関と連携して取り組み、満足度を高めていくことが望ましいと考える。

第5章 水と緑きらめく自然と共に生きる快適環境の創出

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移						結果の分析	今後の方針	備考
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度			
55	511	環境保全	市内家庭の総消費電力	Mkw/年	239,143 [H22]	191,315	目安値実績値	229,577	220,012	210,446	省エネやクールシェア・ウォームシェアについての広報により、市民においても省エネ行動は意識されていると考えられるが、近年の異常な暑さや、積雪量の増加などもあり、生活習慣の中で必要なエネルギー使用量が一定化されてきている。	近年の異常な暑さや、積雪量の増加なども勘案しつつ、市の広報やホームページ、FM放送などにより周知を強化するとともに、省エネ住宅・省エネ機器の導入促進につながる助成などを検討目標達成のために広報を充実させる。	
						評価	234,346	232,069	227,254				
							概ね順調	やや遅れている	やや遅れている				

施策名：環境保全

- 総合的環境施策の推進
- 環境保全対策（地下水の保全や公害防止など）の推進
- 地球環境保全（省エネルギーや環境負荷低減）の啓発や実践



アンケート結果の分析

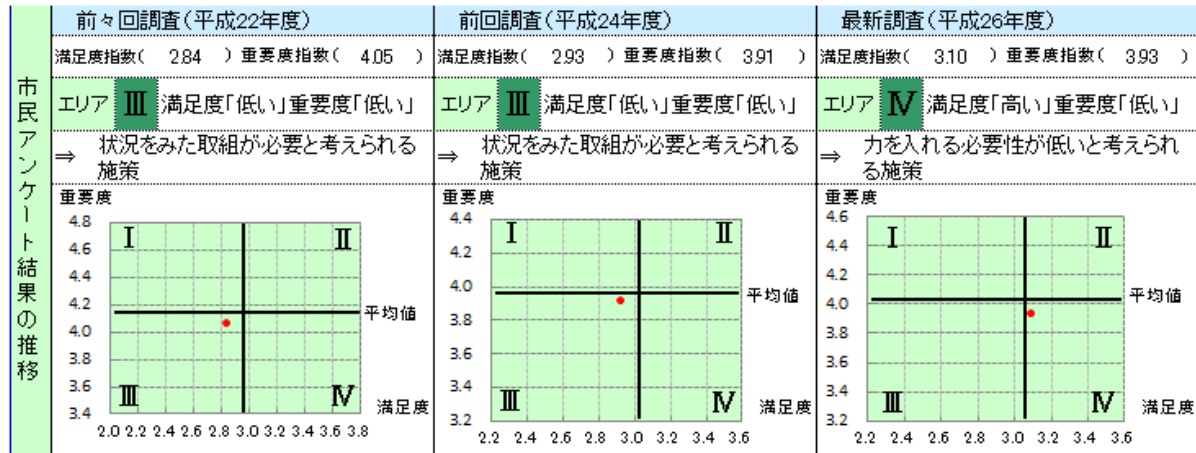
前回の調査までは、満足度指数についても調査毎に増加していたが、最新（平成26年度）調査においては満足度、重要度ともにほぼ平均値となっている。これは続けてきた施策の達成結果ともいえるのではないかと考えられるが、今後については市民の意識や社会情勢なども勘案しながら、施策を実施していく必要がある。

第5章 水と緑きらめく自然と共に生きる快適環境の創出(続き)

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移							結果の分析	今後の方針	備考
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度				
56	512	街並み緑化・公園・景観形成	平尾山公園の入場者数	人/年	411,947 [H22]	420,000	目安値	413,558	415,168	416,779	H26年度は冷夏による影響、高速道路利用者の減少の影響による公園利用者の減少が見られた。	公園利用者の増加を図るため、公園のイベント、企画展等に対するニーズの把握に努め、より効果的な企画を実施するように、公園管理を行っている指定管理者と協議をする。また、公園開設から約20年が経過し、施設の老朽化が見られることから、公園施設長寿命化計画に基づき施設の更新を順次行う。		
							実績値	386,238	348,927	332,810				
							評価	遅れている	遅れている	遅れている				
57			都市公園の整備面積	㎡/人	7.94 [H22]	9.82	目安値	8.32	8.69	9.07	市民交流ひろばの開園、佐久総合運動公園補助競技場等の整備により公園面積は増加している。	佐久総合運動公園の整備を計画通り進めていく。		
							実績値	8.11	8.49	9.00				
							評価	順調	概ね順調	概ね順調				

施策名：街並み緑化・公園・景観形成

- 公園の整備推進
- 公園の適正な維持管理と利用
- 水辺空間の整備
- 緑化の促進
- 良好な景観形成の推進



アンケート結果の分析

市民交流ひろばを整備したことにより遊具の充実した子供たちが安心して遊べる広々とした公園というニーズが満たされたことで満足度が上がったと考えられる。

第5章 水と緑きらめく自然と共に生きる快適環境の創出(続き)

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移						結果の分析	今後の方針	備考
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度			
58	521	環境衛生	家庭系ごみの排出量	t/年	21,384 [H21]	19,591	目安値	21,025	20,667	20,308	資源物と埋立ごみは減少傾向にあるが、雑がみ等資源に分別されるべきものが分別徹底されず、可燃ごみは増加している。	市民に対し、ごみの減量化、資源化、分別の徹底について、広報やホームページ、FMラジオ、ケーブルテレビ等を活用し啓発する。	
							実績値	20,297	19,621	19,487			
							評価	順調	順調	順調			
59	521	環境衛生	事業系ごみの排出量	t/年	5,296 [H21]	4,670	目安値	5,171	5,046	4,920	資源に分別されるべき雑がみ類の分別徹底がされず、可燃ごみが増加している。	事業系ごみ袋販売の際に市役所窓口で分別徹底指導や、前年度比排出量増加事業所へ直接指導するなど啓発を強化する。	
							実績値	5,754	5,705	5,725			
							評価	遅れている	遅れている	遅れている			

施策名：環境衛生

- 廃棄物（ごみ）処理対策の推進
- し尿・汚泥対策の促進

市民アンケート結果の推移	前々回調査(平成22年度)	前回調査(平成24年度)	最新調査(平成26年度)
		満足度指数(282) 重要度指数(452)	満足度指数(316) 重要度指数(421)
	エリア I 満足度「低い」重要度「高い」	エリア II 満足度「高い」重要度「高い」	エリア II 満足度「高い」重要度「高い」
	⇒ 力を入れる必要性が高いと考えられる施策	⇒ 現状維持が妥当と考えられる施策	⇒ 現状維持が妥当と考えられる施策
	<p>重要度</p> <p>満足度</p> <p>平均値</p>	<p>重要度</p> <p>満足度</p> <p>平均値</p>	<p>重要度</p> <p>満足度</p> <p>平均値</p>

アンケート結果の分析
重要度指数は過去3回のアンケート結果とも4点以上であり、市民生活との関わりが大きく、重要な事業である。満足度指数は前回のアンケート結果よりも若干低下しているものの高く、継続的にごみの減量化等の施策を行い、満足度が向上するよう、引き続き効果的に施策を実施していきたい。

第5章 水と緑きらめく自然と共に生きる快適環境の創出(続き)

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移						結果の分析	今後の方針	備考
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度			
60	522	上水道	上水道有収率	%	84.0 [H22]	90.0	目安値実績値	85	86	86	漏水調査等、有収率向上対策による効果とみられる。しかし、施設の老朽化等による漏水があるため今後においても低減に努める。	水資源を有効に活用するため、漏水防止の施策に継続して取り組み、漏水量の低減を図るとともに有収率の向上に努める。	
							評価	やや遅れている	遅れている	遅れている			
							評価						
61	522	上水道	水源余裕率	%	16.2 [H22]	22.0	目安値実績値	17	19	20	水源余裕率が増えた要因は、節水意識の向上や人口減少と思われる年間使用量の減少に伴い、1日最大配水量が減少し、確保している水源水量の余裕ができたため。	将来に向け安定した水の供給を維持していくため、適正な水源水量の確保に努める。	
							評価	概ね順調	遅れている	順調			
							評価						

施策名：上水道

- 水資源の保全
- 上水道の整備・管理

市民アンケート結果の推移	前々回調査(平成22年度)	前回調査(平成24年度)	最新調査(平成26年度)
		満足度指数(359) 重要度指数(4.36)	満足度指数(345) 重要度指数(4.27)
	エリア II 満足度「高い」重要度「高い」	エリア II 満足度「高い」重要度「高い」	エリア II 満足度「高い」重要度「高い」
	⇒ 現状維持が妥当と考えられる施策	⇒ 現状維持が妥当と考えられる施策	⇒ 現状維持が妥当と考えられる施策

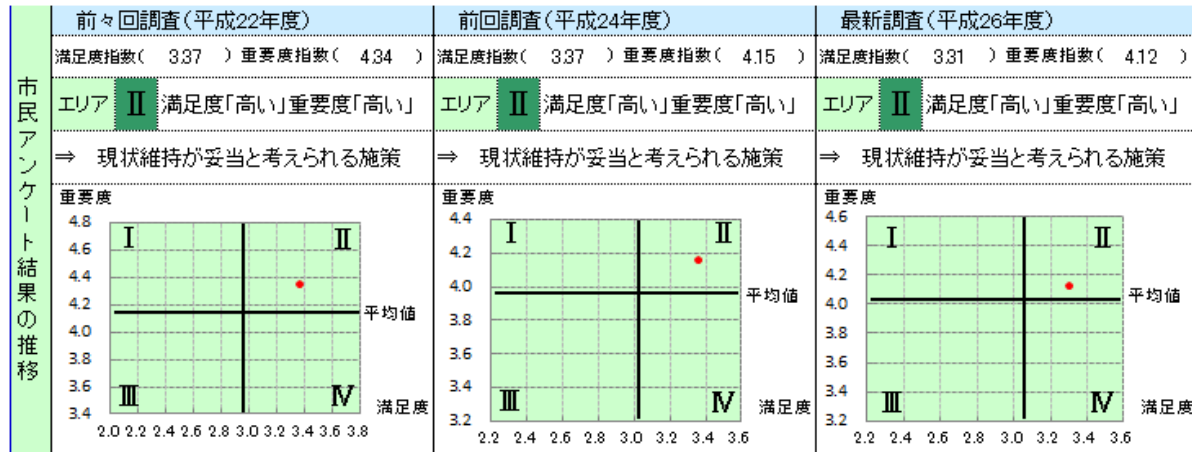
アンケート結果の分析
<p>安全で安心な水の安定供給により、上水道事業施策は評価を得ていると思われる。</p> <p>日常生活に欠くことのできない水に係る上水道事業の重要性に対し理解、信頼が得られるよう積極的かつ、より効果的な事業の推進する。</p>

第5章 水と緑きらめく自然と共に生きる快適環境の創出(続き)

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移						結果の分析	今後の方針	備考			
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度						
62	523	下水道	下水道整備面積	ha	2,931 [H22]	3,032	目安値実績値 評価	2951	2971	2992	平成26年度は西屋敷地区、荒宿地区など3.05haの整備を行い面積は増加しているが、現在統廃合事業を優先しているため、未普及の下水道整備は目標値を下回っている。	財政面も含めて未整備地区の優先順位を考慮し、整備促進を図っていく。				
63			水洗化率	%	86.9 [H22]	90.9	目安値実績値 評価	88	89	89				未接続区域への整備が進み、宅内工事をする世帯が増加したため、水洗化率は順調に伸びている。	公共下水道区域の未接続世帯を対象に戸別訪問を実施し、水洗化の促進を図る。	目標達成
64			下水道使用料収納率(現年分)	%	96.8 [H22]	100	目安値実績値 評価	97	98	99						

施策名：下水道

- 公共下水道の整備と管理
- 下水道の健全経営
- 合併処理浄化槽の普及と管理
- 生活排水処理施設の統廃合



アンケート結果の分析

市民は下水道事業を重要と感じている。また、満足度が高いのは普及率が高いためと考えられる。今後は下水道への接続状況を見据える中で、未整備地区の整備促進を図っていく必要がある。重要度指数は4.12で下水道の必要性は認識されており、市民生活に欠かせない事業である。また、満足度指数も3.31と高い数値になっている。今後も引き続き安定経営の確保を図るとともに、処理施設の適切な維持管理に努めていく。

第6章 市民生活の安全確保と市民満足度の向上

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移						結果の分析	今後の方針	備考
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度			
65	611	防災	自主防災組織設置区数	区	230 [H22]	239	目安値実績値評価	232	234	235	地域での会合に出向き、防災の重要性を訴えた結果が表れたと思われる。	自主防災組織を現実的に設置できない地域への対応策を区長と相談し、安全・安心へ繋げる取り組みを図る。	
66			地域自主防災訓練実施区数	区	143 [H22]	239	目安値実績値評価	162	181	201	東日本大震災後、平成25年度に市で作製したハザードマップを全戸配布した結果、防災意識の高揚に繋がり、わずかではあるが上昇しているが、目標値は達成していない。	これまででは、組織編成だけに留まっていたが、新規に訓練に取り組みを始めた地域も微増している。いつくるかわからない備えではなく、いつか必ず来る備えに地域防災への高揚を図る。	

施策名：防災

- 防災体制の強化
- 防災対策の推進
- 市民の防災意識の高揚
- 武力攻撃事態等における国民保護体制の整備

市民アンケート結果の推移	前々回調査(平成22年度)	前回調査(平成24年度)	最新調査(平成26年度)
		満足度指数(3.46) 重要度指数(4.44)	満足度指数(3.13) 重要度指数(4.14)
	エリア II 満足度「高い」重要度「高い」	エリア II 満足度「高い」重要度「高い」	エリア II 満足度「高い」重要度「高い」
	⇒ 現状維持が妥当と考えられる施策	⇒ 現状維持が妥当と考えられる施策	⇒ 現状維持が妥当と考えられる施策

アンケート結果の分析
<p>ハザードマップの作成や、出前講座などを実施することにより、満足度、重要度は共に高い水準にあるが、防災に対する満足＝油断に繋がりがねない。あらゆる対策に傾注する中で、防災力の向上に努める。</p>

第6章 市民生活の安全確保と市民満足度の向上(続き)

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移						結果の分析	今後の方針	備考
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度			
67			消防団協力事業所数	事業所	57 [H22]	100	目安値実績値評価	66 93 順調	74 96 順調	83 101 順調	H26年度にて、目標値に到達することができた。協力事業所に対する県税の優遇制度・市の入札優遇制度の効果や災害時における消防団の重要性が広く理解されたものと考えられる。	目標値に達したが、今後も引き続き消防団協力事業所の募集を呼び掛けを行っていく。	目標達成
68	612	消防・救急	火災発生件数	件/年	61 [H22]	25	目安値実績値評価	54 64 遅れている	47 43 順調	39 68 遅れている			

施策名：消防・救急

- 広域消防・救急体制の強化
- 地域消防体制の充実
- 市民・民間の防火体制充実

市民アンケート結果の推移	前々回調査(平成22年度)	前回調査(平成24年度)	最新調査(平成26年度)
		満足度指数(3.46) 重要度指数(4.44)	満足度指数(3.40) 重要度指数(4.21)
	エリア II 満足度「高い」重要度「高い」	エリア II 満足度「高い」重要度「高い」	エリア II 満足度「高い」重要度「高い」
	⇒ 現状維持が妥当と考えられる施策	⇒ 現状維持が妥当と考えられる施策	⇒ 現状維持が妥当と考えられる施策

アンケート結果の分析

満足度指数については、微減してはいるが依然高い数値を示しており、市民の消防署及び消防団に対する期待度の高さがうかがえる。重要度指数は若干の増加傾向である。佐久消防署及び北部消防署の竣工に伴い、防災拠点施設が確立されたことにより、市民が暮らすまちとしての安心度の高さがうかがえるが、今後もこの数値が減少しないように事業を実施していく。

第6章 市民生活の安全確保と市民満足度の向上(続き)

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移						結果の分析	今後の方針	備考
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度			
69	613	交通安全	交通安全大会、各種講習会などの延べ参加者数	人/年	10,442 [H22]	16,000	目安値実績値評価	11,554	12,665	13,777	市内幼稚園、保育園、小中学校及び各地区高齢者クラブに安全教室開催の要請を行った結果、実施回数、参加人員とも前年度を上回った。	交通安全市民大会、各種講習会等の開催要請を関係機関団体に対して行い、教育啓発活動を推進する。	
								順調	やや遅れている	概ね順調			

施策名：交通安全

- 交通安全環境の整備
- 交通安全意識の高揚
- 交通事故に関する相談・救済対策の充実

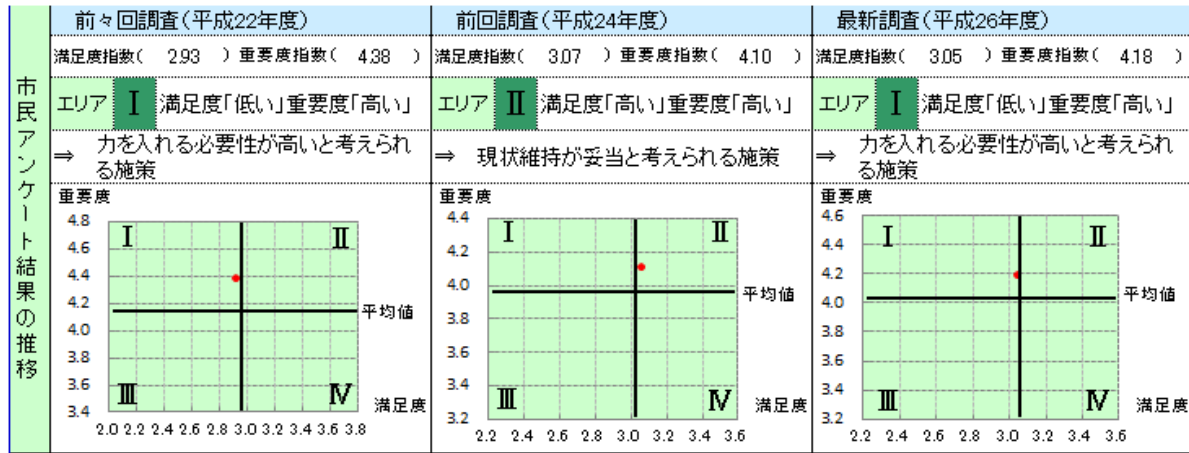
市民アンケート結果の推移	前々回調査(平成22年度)	前回調査(平成24年度)	最新調査(平成26年度)	アンケート結果の分析
	満足度指数(3.18) 重要度指数(4.31)	満足度指数(3.16) 重要度指数(4.09)	満足度指数(3.07) 重要度指数(4.17)	
エリア II 満足度「高い」重要度「高い」	エリア II 満足度「高い」重要度「高い」	エリア II 満足度「高い」重要度「高い」		満足度指数は、ほぼ平均値で小中学校、高齢者クラブ等への交通安全教室等の啓発活動が一定の評価を受けたものと思われるが、ポイントは前回調査より減少しており、交通死亡事故等の重大事故が減少していないことが原因と思われる。 重要度指数は高く、交通事故は誰もが当事者となりうる身近な危険であることから、市民の関心が高いものと思われる。今後、交通弱者の保護等を行うことが満足度を更に上げるためにも重要になってくる。
⇒ 現状維持が妥当と考えられる施策	⇒ 現状維持が妥当と考えられる施策	⇒ 現状維持が妥当と考えられる施策		
<p>重要度: 3.4-4.8, 満足度: 2.0-3.8</p>	<p>重要度: 3.2-4.4, 満足度: 2.2-3.6</p>	<p>重要度: 3.2-4.6, 満足度: 2.2-3.6</p>		

第6章 市民生活の安全確保と市民満足度の向上(続き)

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移						結果の分析	今後の方針	備考
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度			
70	614	防犯	犯罪発生件数	件/年	1,079 [H22] (852)	835 (660)	目安値 実績値 評価	1,030 (814)	981 (775)	933 (737)	刑法犯の認知件数は減少傾向であるが、振り込め詐欺等の特殊詐欺事件は、後を絶たない状況である。 (値は佐久警察署管内値のため。カッコ内に佐久市内値を記載)	夜間の犯罪防止のための防犯灯設置をはじめ、地域が一体となった防犯体制及び活動の更なる充実を図る。また、特殊詐欺事件対策として、警察、防犯協会等と連携し、被害防止を図ります。	

施策名：防犯

- 防犯体制・防犯活動の強化
- 防犯施設の整備



アンケート結果の分析

全国的に発生している振り込め詐欺等の特殊詐欺事件や子どもや女性を対象とした凶悪事件などを背景に重要度の高い施策となっている。
平成24年度と比較すると微減であるが、平成22年度からの満足度は上昇していることから一定の政策効果は表れていると考える。
今後も警察、防犯協会と連携し施策を実施していく。

第6章 市民生活の安全確保と市民満足度の向上(続き)

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移						結果の分析	今後の方針	備考
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度			
71	615	消費生活	消費生活展、街頭啓発、講習会などの実施回数	回/年	35 [H22]	60	目安値実績値評価	40	45	50	開催依頼を行っている老人クラブ対象の講習会が全クラブ中、半数に留まっていることから達成できなかった。	高齢者の特殊詐欺等の被害者が多いことから、市内全老人クラブに対して講習会の開催を更に働きかける。	
								26	31	37			
								遅れている	遅れている	遅れている			

施策名：消費生活

- 消費者保護対策（悪質商法契約など各種トラブルへの対策等）の推進
- 消費者意識の高揚
- 消費生活の改善

市民アンケート結果の推移	前々回調査(平成22年度)	前回調査(平成24年度)	最新調査(平成26年度)
		満足度指数(294) 重要度指数(412)	満足度指数(304) 重要度指数(380)
	エリア III 満足度「低い」重要度「低い」 ⇒ 状況をみた取組が必要と考えられる施策	エリア IV 満足度「高い」重要度「低い」 ⇒ 力を入れる必要性が低いと考えられる施策	エリア IV 満足度「高い」重要度「低い」 ⇒ 力を入れる必要性が低いと考えられる施策

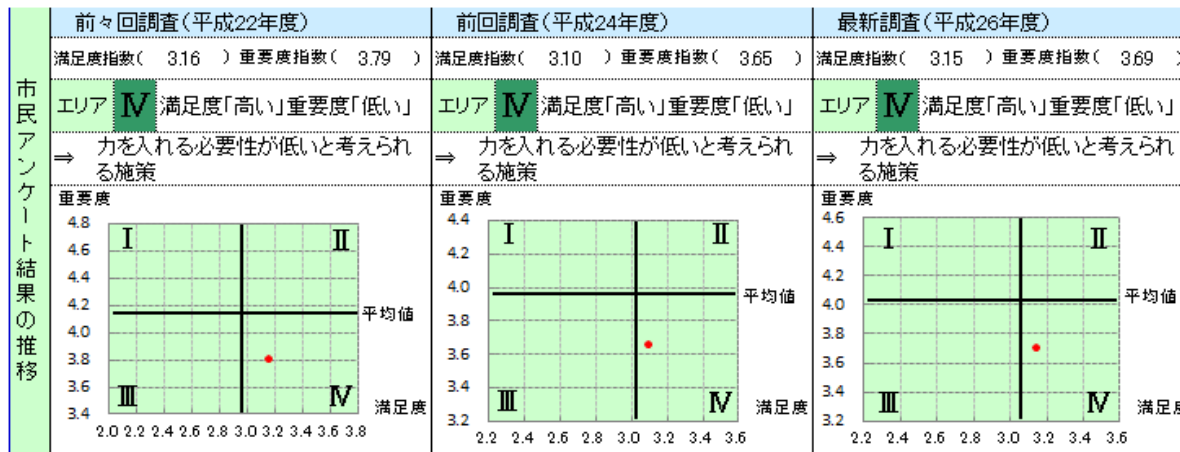
アンケート結果の分析
<p>満足度指数は、前回調査に比べ微増しており、佐久市消費生活センターによる相談について、一定の評価が得られたためと思われる。</p> <p>重要度指数は、「低い」となっているが、悪質商法被害等に対する市民意識が低調であるためと思われる。</p> <p>消費生活センターの周知と合わせ、悪質商法防止、特殊詐欺被害防止の広報啓発を推進する。</p>

第6章 市民生活の安全確保と市民満足度の向上(続き)

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移						結果の分析	今後の方針	備考			
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度						
72	621	協働のまちづくり	佐久市市民活動サポートセンター登録団体数	団体	- [H22]	300	目安値実績値 評価	60	120	180	登録団体増加のための広報活動を行ったが、前年と比較すると、1年間に登録した団体は減少した。年間に登録する団体数が横這い傾向である。	ホームページ、フェイスブックページ、機関誌等を活用し広くPRし、新しく立ち上げる団体の登録を推進する。				
73			佐久市まちづくり活動支援金事業を活用する団体数	団体/年	- [H22]	10	目安値実績値 評価	2	4	6				交付対象経費が20万円以上の高額補助枠と、20万円以下の少額補助枠を設け、市民が利用しやすいように見直しを行ったため、活用団体が増加した。	まちづくり支援金の認知度を高めるため、積極的なPRを行う。	目標達成
74			各審議会など全体公募委員割合	%	3.2 [H22]	10.0	目安値実績値 評価	5	6	7						
							5.4	5.4	5.6							
								順調	概ね順調	やや遅れている						

施策名：協働のまちづくり

- 市民の市政参画機会の拡充
- 広報・広聴の充実
- 協働のまちづくりの推進
- 情報提供と個人情報保護



アンケート結果の分析

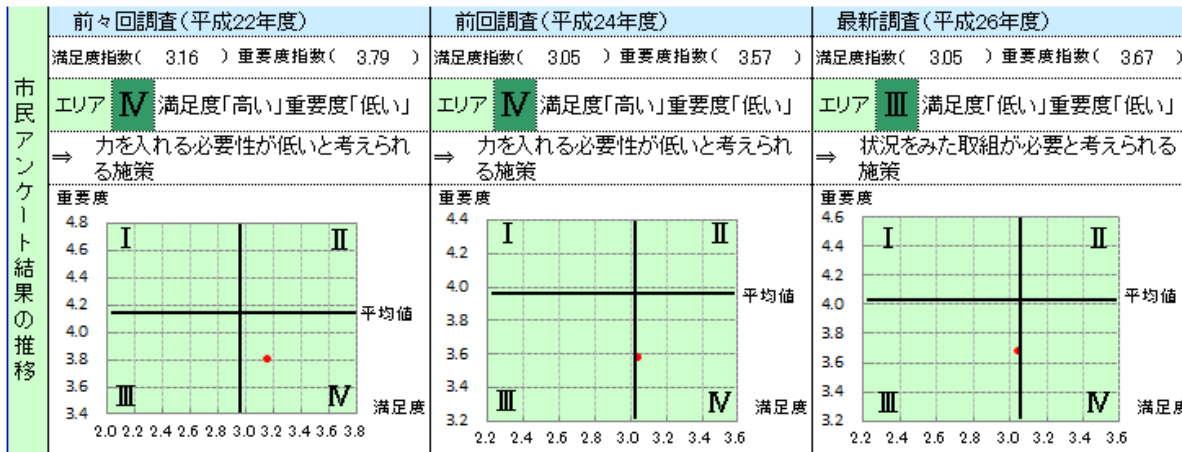
少子高齢社会の急激な進行、日本経済の落ち込みなどの市民生活における不安材料が増加するに伴い、地域社会における市民意識が「協働のまちづくり」にシフトする傾向にある。アンケートによる市民意識からは、必ずしもこの施策が重要視されていないように見受けられるが、ワークショップに参加する市民からは、安定生活に対する危機や不安が感じられるとともに、新しい公共を進めようとする動きがでてきている。このことから、市民活動サポートセンターを通じて、また、まちづくり活動支援金の活用を推進をして、協働のまちづくりを進めていく。

第6章 市民生活の安全確保と市民満足度の向上(続き)

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移							結果の分析	今後の方針	備考
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度				
75	622	コミュニティの育成	区への加入率	%	87.57 [H22]	90.00	目安値実績値	88	89	89	都市化の進展と共に、区への加入率も低下しており、共助の精神は希薄化する傾向にある。	魅力あるコミュニティ活動を支援するため、区の活動費等に対して交付金を交付する。また、新たな連携の方法についても模索していく。		
						評価	遅れている	遅れている	遅れている					

施策名：コミュニティの育成

- 地域自治組織の育成
- コミュニティ活動環境(情報交換の促進や施設整備)の充実
- 住民主体のまちづくりへの支援



アンケート結果の分析

都市化の進展や核家族化による、地域のつながりの希薄化により、満足度、重要度も低くなったと考えられる。市民参加型市政を推進するにあたっては、協働のまちづくりが重要となり、それを支える地域コミュニティを充実、活性化するための支援は今後も必要と考える。

第6章 市民生活の安全確保と市民満足度の向上(続き)

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移						結果の分析	今後の方針	備考		
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度					
76	623	公共施設	新規指定管理者制度導入施設数	施設/年	1	1	1	1	1	1	1	1	佐久市温水利用型健康運動施設(新クリーンセンター・斎場整備推進室所管)について、DBO方式により選定された事業者を指定管理者として選定した。	指定管理者制度を適用させることにより、市民サービスの向上や経費の節減等が図れることから、各課と調整し、積極的な制度の導入に向けた調整を行っていく。	目標達成

施策名：公共施設

- 公共施設の管理方法
- 公共施設の適正な配置と整備
- 公共施設の耐震化

市民アンケート結果の推移	前々回調査(平成22年度)	前回調査(平成24年度)	最新調査(平成26年度)
		満足度指数(2.64) 重要度指数(4.43)	満足度指数(2.93) 重要度指数(3.69)
	エリア I 満足度「低い」重要度「高い」 ⇒ 力を入れる必要性が高いと考えられる施策	エリア III 満足度「低い」重要度「低い」 ⇒ 状況を見た取組が必要と考えられる施策	エリア III 満足度「低い」重要度「低い」 ⇒ 状況を見た取組が必要と考えられる施策
	重要度 4.8 4.6 4.4 4.2 4.0 3.8 3.6 3.4 2.0 2.2 2.4 2.6 2.8 3.0 3.2 3.4 3.6 3.8 満足度	重要度 4.4 4.2 4.0 3.8 3.6 3.4 3.2 2.2 2.4 2.6 2.8 3.0 3.2 3.4 3.6 満足度	重要度 4.6 4.4 4.2 4.0 3.8 3.6 3.4 3.2 2.2 2.4 2.6 2.8 3.0 3.2 3.4 3.6 満足度

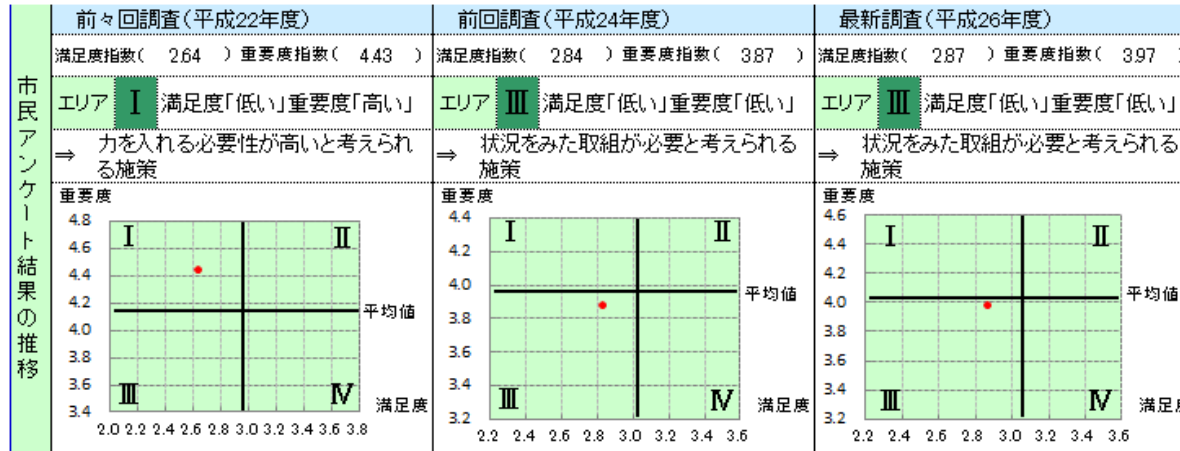
アンケート結果の分析
<p>満足度指数は、微増ではあるが前回とほぼ同様の数値であり、市の施策の中では低い結果となっている。これは、公共施設やインフラ等の老朽化が進んだことによる、既存施設に対する評価が表れたものと考えられる。</p> <p>また、重要度指数も微増ではあるが、依然として低い結果となっており、これは公共施設マネジメントの取組みについての説明が不十分であり、市民の公共施設マネジメントに対する意識が低い結果であると考えられる。</p> <p>今後は、市民に本事業の理解を求める場としての市民説明会や問題意識を共有してもらうための周知等を積極的に実施することにより、公共施設マネジメントの必要性を理解してもらうと共に、マネジメントの推進に向けた合意形成を進めていく必要がある。</p>

第6章 市民生活の安全確保と市民満足度の向上(続き)

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移						結果の分析	今後の方針	備考
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度			
77	624	行財政	市税収納率(現年課税分)	%	97.25 [H22]	100	目安値実績値評価	97.80	98.30	98.90	専任徴収員による戸別訪問徴収の実施や換価性の高い債権(給与、預貯金等)の重点的な差押の実施等により、概ね順調な結果となった。	引き続き滞納処分を強化していく。	
							97.86	98.26	98.38				
							順調	概ね順調	概ね順調				

施策名：行財政

- 効率的な行政運営
- 効率的な財政運営
- 適正な人事管理と職員能力発揮
- 入札及び契約の適正化



アンケート結果の分析

重要度は、前回に比べ平均値に近づいているが、満足度は、前回と変化が見られず共に低い指数となっている。重要度に関しては、税に対する関心がまだ低いことが要因と考えられ、満足度が伸びないのは、収納率は向上しているが、更なる未収金削減に努めてほしいという市民の要望によるものと考ええる。

自主財源確保の根幹をなす市税等の徴収業務は、市政の運営において最も重要な施策であり、将来においてその重要度は不変と考えるので、今後も市民の税に対する関心を深めさせ、更なる収納率の向上を図っていくことが必要であるとする。

第6章 市民生活の安全確保と市民満足度の向上(続き)

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移						結果の分析	今後の方針	備考
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度			
78	625	広域連携	定住自立圏による事業実施数	事業	- [H22]	25	目安値実績値評価	5	10	15	具体的な取り組みの開始から3年目を迎え、制度がより浸透したことにより、事業実施が順調に行われている。	引き続き関係市町村との連携・協力を図り、定住自立圏による事業を推進していく。	目標達成
								31	32	32			
								順調	順調	順調			

施策名：広域連携

- 広域行政の推進
- 定住自立圏構想の推進
- 広域行政の組織機能強化

市民アンケート結果の推移	前々回調査(平成22年度)	前回調査(平成24年度)	最新調査(平成26年度)
		満足度指数(264) 重要度指数(443)	満足度指数(304) 重要度指数(356)
	エリア I 満足度「低い」重要度「高い」 ⇒ 力を入れる必要性が高いと考えられる施策	エリア IV 満足度「高い」重要度「低い」 ⇒ 力を入れる必要性が低いと考えられる施策	エリア IV 満足度「高い」重要度「低い」 ⇒ 力を入れる必要性が低いと考えられる施策
	重要度 4.8 4.6 4.4 4.2 4.0 3.8 3.6 3.4 2.0 2.2 2.4 2.6 2.8 3.0 3.2 3.4 3.6 3.8 満足度	重要度 4.4 4.2 4.0 3.8 3.6 3.4 3.2 2.2 2.4 2.6 2.8 3.0 3.2 3.4 3.6 満足度	重要度 4.6 4.4 4.2 4.0 3.8 3.6 3.4 3.2 2.2 2.4 2.6 2.8 3.0 3.2 3.4 3.6 満足度

アンケート結果の分析
満足度指数は前回調査に比べて微増しており、ほぼ平均値であるため、広域連携について一定の評価が得られていると思われる。 また、重要度指数は前回調査時より微増しているが、平均値より低い値となっている。これは佐久広域連合による事業実施や佐久地域定住自立圏共生ビジョンが策定され、取り組みが一般的になったためであると考えられる。